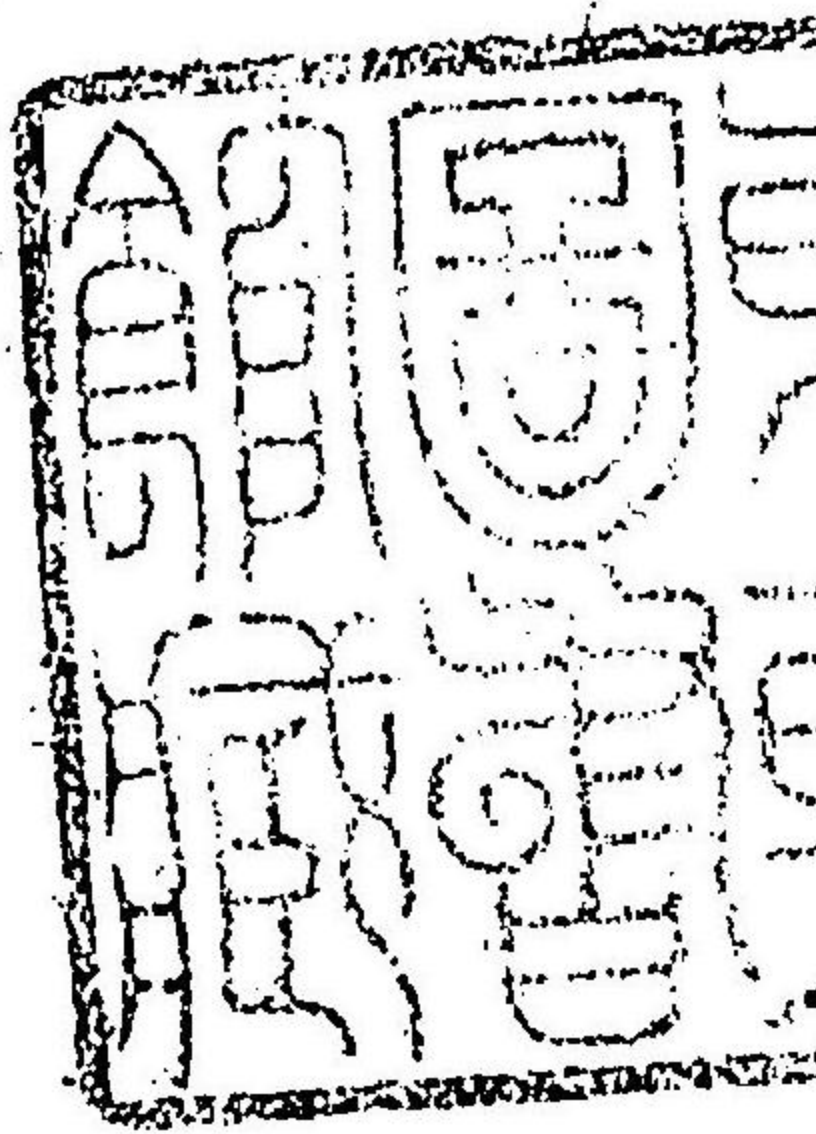


特71

334

傳染病豫防消毒心得書



緒言

本書述ブル所ハ北里醫學博士ノ説カレタル所ニシテ薄學淺識ナル編者ノ説ニアラス然レモ
素養ナキ編者ノコナレハ誤聞誤書ハ免カレザル所ナリト信ズ是レ偏ニ編者ノ罪ニシテ責ヲ
北里博士ニ負ハシムルナカラシムコトヲ望ム

敢テ又言ヲ構飾スル等ノコトヲ爲サズ
本書ハ本縣警部天野雨石氏ノ校閲ヲ經タリ

編者識



傳染病豫防消毒心得書

予カ今春大日本私立衛生會ノ設立ニ係ル衛生事務講習所ニ入り修得セシ事タル事務ノ名
ノ下ニ學術ヲ授ケラレタルモノニシテ各科其專門家ノ講義タリシナリ故ニ今悉ク之ヲ諸
君ニ傳ヘントスルハ甚々繁雜ニ亘ルノミナラス此種ノ素養ナキ予ハ却テ諸君ニ疑惑ヲ生
セシメンコトヲ恐レ只北里醫學博士ノ講義ニ係ル細菌學中ニ於テ最必要ナル項ヲ採リ之ヲ
現行豫防消毒心得書ニ對照シ以テ實務上ノ便益ヲ計ラントス

廣島縣佐伯郡書記 河内 一郎 識

總論

病毒ヲ一時ニ流シ多數ノ人衆ヲ斃シ巨万ノ財産ヲ蕩盡シテ慘害ヲ逞フスルモノ世豈傳染病
ノ右ニ出ルモノゾヤ故ニ今公共事業上殊ニ衛生上最急務トスル處ノモノハ實ニ傳染病
ノ豫防撲滅法ナリトス
傳染病ノ原因ハ三四十年前迄ハ素人ハ素ヨリ醫師ニ於テモ種々架空ノ想像ヲナシ不動ノ確
説トテハオカリシ假令バ腸窒扶斯、間歇熱、虎列刺等ノ如キモ皆一種ノ毒氣アリテ人之ニ觸
ルニヨリテ發病スルモノトナシ其毒ハ土地其他不潔ノ處ヨリ生ズル瓦斯ナリトシテ之ヲ
シヤクヤ性ノ病ト稱シ此毒氣ノ消毒ニ重キヲ置キタルモノ、如シ是レ土地不潔物中ノ毒カ
空氣ニ飛散シテ人類ニ感染スルモノト考ヘシナ以テナリ蓋シ研究ノ道堯ケサリシ時代ナリ
シナ以テ亦止ムヲ得サリシユトナリ

後佛蘭西ニバステール氏獨逸ニユツボ氏等アリテ共ニ傳染病原因研究ノ學ヲ起シ大ニ之ヲ
カメ今ヤ傳染病ノ原因ハバクテリアや或ハプロトゾオンナルコトヲ發見セルモノ日ニ其數ヲ加

フルニ至レリ

バクテリアハ極微至細ノ下等植物ニシテプロトゾオンハ下等動物種族ニ屬ス而シテ此プロトゾオンナルモノハ僅ニ十年來ノ研究ニ係リ之カ病原ヲナスモノニハ已ニ見出サレタルモノアリト雖モバクテリアノ如ク充分ナル試檢等ヲナスノ法未ダ發見セラレズ其學ハ尙幼稚ナルモノナリ然レモバクテリア即細菌ガ病ノ原因ヲナスモノニ至テハ今日迄ニ發見セラレタルモノコレラペスト腸壁扶斯等ヲ始メ其他數十種ニ及ベリ而シテ此學ハ三四十年來各國ノ學者ノ研究シタル結果ニヨリ今ハ諸種ノ試檢方等備ハリテ明カニ其原因ヲ探リ得又之ヲ証據立ツルコトヲモ爲シ得ルニ至レリ今予ガ諸君ニ其要ヲ傳ヘントスルモノハ即チ此細菌學ナリ

凡細菌學上某細菌ガ其傳染病ノ原因ナリトノコトヲ証スルニハ左ノ三點ヲ確メサル可ラス假令バ虎列拉ニ就テ其一例ヲ舉クレバ

- 第一 コレラ菌ハ必コレラ病者ノ小腸中ニ存在スルコト
- 第二 他ノ病者ノ小腸中ニハ此コレラ菌ノ存在セサルコト
- 第三 其細菌ヲ動物ニ試植スレバ動物ハ該病ニ罹ルコト

但シ動物ニヨリ感受ニ善不善アルヲ以テ只其一定ノ症候ヲ呈スレバ其試驗ハ確實ナルモノナリトス

以上三點ヲ確メテ初コレラ菌ハコレラナル傳染病ニ固有ニシテ其病原ナリトノコトヲ確認セラレ得ルモノトスルノ類ナリ

以上ハ學者カ病原ヲ見出ス手續ニシテ今實地病人ノ有スル細菌ハ果テ何病ノ細菌ナルカヲ

知ラントスルニハ其菌ノ形狀生活ノ狀態即培養上ノ現象等諸種ノ試驗ニ於テ判斷セサル可ラス故ニ今各病ニ入ルニ先チ豫メ此等ノ大要ヲ述ヘ置カントス

人工培養法

細菌ヲ培養スルニハ病者ノ血液大便或ハ咯痰等其病菌ノ存在セルモノヲトリ之チ一ノ平面ナル培養基ニ培養セハ其中ニハ單ニ病原的ノ細菌ノミニ止マラス諸種ノ細菌アルヲ以テ此等モ共ニ播殖ス之ヲ扁平培養ト云フ

此培養ニ於テハ每個ノ細菌ハ繁殖シテ每個必ス各一ケノ聚落ヲ造ル而シテ其同形狀ノ聚落ヨリハ同一ノバクテリアヲ得ルヲ常トス

如此細菌ナルモノハ全種類ノモノ必同形ノ聚落ヲナシ居ルモノナルヲ以テ此聚落中ヨリ病原的細菌ヲ採リ更ニ他ノ培養基ニ移植ス之ヲ純粹培養ト云フ
其人工培養上使用スル培養基ハ大約左ノ如シ

肉汁培養基 (ペプトン)

膠質培養基 (ゲラチン)

寒天培養基

馬鈴薯培養基

血清培養基

牛乳培養基

此外尙數種アレモ必要ナキヲ以テ略ス虎列拉菌ニ對シテハ又一種ノ培養法アリ今仮リニ飲水料中ニコレラ菌ノ入りシヤノ疑アルコトアリテ之ヲ檢スル場合ニハ其水若干量ヲトリテ

培養基ニ充テ之ニ相當スルペプトン及食鹽（水一〇〇、ペプトン一）ヲ入レテ培養基トナサバ若シユレバ菌其水中ニアルルハ直ニ發育播殖スルヲ以テ知ルコトヲ得ベキナリ然レモ是甚ダ難事ナリ何トナレバ其水中ニテモ其細菌ノ存在セル部分ヲトルコトハ容易ナラザルコトナルヲ以テナリ

細菌ノ形状

細菌ナルモノハ肉眼ヲ以テ見得ベカラザル至極微細ノ下等植物性ノモノニシテ空氣、土、水等到處トシテ之ヲキハナシ而シテ其形状種々アリ通常之ヲ左ノ三種ニ區別ス

第一 分裂菌

第二 醱酵菌

第三 糸狀菌

右第一ハ分裂作用ニヨリテ繁殖スルモノニシテ傳染病ノ原因トナルモノハ多クハ此種類ニ屬ス第二ハビールノ醸造等工業上ニ有用ナルモノ第三ハ通常ノカビ即チ食物ノ上杯ニ生スルモノニシテ此二種中ニハ今日迄傳染病ノ原因トナルモノヲ見出サレタルコトナシ故ニ第三第三ノ二種ハ之ヲ畧ス而シテ傳染病ノ原因トシテ述フル所ノ第一種ノ細菌ナル名ハ病原的ノモノニノミ用ヒラレ居ルガ如シ而シテ此分裂菌ニ屬スルモノ亦三種ニ大別ス

第一 球狀菌

第二 桿狀菌

第三 螺旋狀菌

第一球狀菌（ミクログリス）即チ其彩玉ノ如キモノ
第二桿狀菌（バクテリア）即チ其形桿又ハ棒ノ如キモノ
第三螺旋狀菌（スピリルレン）即チ其形曲リテチヂノ如キモノ
以上三種ハ病ニヨリテ各相異ナルモノニシテ之ヲ檢スルニハ顯微鏡ノ力ニヨルベキハ素ヨ

リナリト雖モ元來極微至細ノモノナルヲ以テ鏡下ニ一見シテ直ニ其形状ヲ明視シ難シ故ニ之ヲ染色スルノ必要アルナリ而シテ此染色ニ亦各種ノ方法アリ假令バ或細菌ハ甲ノ染色法ニヨリ染メ得ベキモ乙ノ染色法ニテハ染メ得サル等ノ如シ故ニ此染色法モ亦其細菌ヲ鑑別スルニ資料トシテ學ヲザル可クサルナリ

人工培養上ノ現象

細菌ノ生死及生活ノ状態ハ之ヲ培養上ニ確メサル可ラズ其現象ノ大要左ノ如シ
運動ヲ有スル細菌ト否ラサルモノトアリテ運動性ノ細菌ハ液体培養基ヲ混濁スルモノナリ其運動セサルモノハ概子之ヲ混濁セシメズ
細菌ニヨリテハ各種ノ培養基ニ發育スルモアレモ亦某ノ培養基ニ發育シテ某培養基ニハ發育セザルモノアリ

凡テ細菌ノ發育スルニハ温度ヲ要ス此温度モ亦細菌ニヨリテ差別アルモノナリ又各種細菌ハ培養基ニ播殖スルノ速度皆同シカラス各多少ノ遲速ノ別アルモノナリ空氣アル處ニアラザレバ發育セザルモノ之ヲ好氣性菌（即チ酸素菌）ト云ヒ空氣ナキ所ニアラザレバ發育セザルモノ之ヲ忌氣性菌（即チ酸素菌）ト云フ又發育ニ伴フテ瓦斯ヲ産成スルモノト否ラザルモノトアリ此瓦斯發生ハ空氣ノ好惡ト相反ス即チ忌氣性菌ハ瓦斯ヲ發生シ好氣性菌ハ之ヲ作ラザルヲ常トス發育ト共ニ色素ヲ生スルト否サルトノ別アリ此外尙バクテリアノ産成物アリ毒素抗毒素インドールスカトール等皆是ナリ

芽胞ノ形成

或細菌ハ時ヲ經充分ノ發育ヲ爲スニ從ヒ其形ヲ變シ芽胞ナルモノヲ形成スルコトアリ總テ植
 物ノ如キモ苗ガ變シテ稻トナリ稻熟シ粃ヲ結ブガ如ク細菌亦下等植物ニ屬スルヲ以テ漸次
 其形ヲ變シテ遂ニ芽胞ヲ形成スルモノアリ
 而シテ此芽胞ヲ形成スルモノハ細菌中實ニ恐ル可キモノニシテ此細菌一旦芽胞ヲ形成シタレ
 ば假令是ヲ日光ニ乾カスモ又ハ何年間ヲ經過スト雖モ其芽胞ハ決シテ枯死スルモノニアラ
 ズ其狀宛モ粃又ハ麥ノ數年間貯藏シテ猶其生活力ヲ失ハザルガ如シ故ニ此芽胞ハ何時ニテ
 モ培養基ニ移セバ充分ニ發育ス恰モ粃ノ數年ノ后ニ至ルモ尙芽ヲ出スガ如シ如此モノナル
 ヲ以テ其芽胞ヲ作りタルモノハ抵抗力非常ニ強大ニシテ容易ニ消毒シ得ザルモノナリ

抵抗力

各病細菌ノ抵抗力ハ各論ニ就テ述ブベキヲ以テ特ニ今列舉セスト雖モ諸君ニ注意ヲ促カシ
 置カザル可カザル事アルハ純粹培養ニ於ケル細菌ト患者ノ排泄物等ニ混在スル細菌トノ抵
 抗力ニ大ナル別アルコト是ナリ素ヨリ細菌其●ニ至テハ兩者相全シト雖モ純粹培養シタ
 ルモノハ字ノ如ク純粹ノ培養ナルヲ以テ一モ他物ヲ混在セスト雖モ患者ノ糞便等ニ存スル
 者ハ各菌皆糞便ニ包マル、ガ故ニ宛カモ堅固ナル甲冑ヲ着シタルガ如シ故ニ消毒藥タル弓
 箭又ハ彈丸モ容易ニ細菌ニ達スルコトヲ得ザルナリ彼ノ鹽酸ヲ加ヘザル昇汞水ヲ以テ大便中
 ノ細菌ヲ消毒セントスルガ如キノ例ニ就キ是ヲ証センニ昇汞ハ蛋白質ニ遇フテ無毒ノ者ヲ造
 ルガ故ニ細菌ニ付着セル便中ノ蛋白質ニ昇汞ノ來ルトキハ蛋白質ヲ作ルテ一枚ノ堅固方
 甲冑トナリ是ヨリ内部ニハ昇汞モ石炭酸モ遂ニ達スルコトヲ得ザルニ至ルノ類ナリ蒸氣消
 毒ニ於テモ亦然リ所謂純粹培養ナル裸体ノ細菌ハ蒸氣熱ヲ直接ニ受クシモ大便中ノ所謂甲

冑ヲ着シタル細菌ニハ其熱度ハ容易ニ達セザルナリ吾人が石風呂ニ入ルニハ裸体ニテ入ル
 トキハ直ニ火傷スベキモ甲冑トモ云フベキ厚キ衣服ヲ着スルトキハ何ノ災害モ受クル事ナ
 シ消防夫ノ火災ノ中ニ投スルニハ厚キサシユノ消防衣ヲ着シテ能ク其身ヲ全フス細菌ノ糞
 便等汚物ニ包マル、モノハ抵抗力非常ニ強ク純粹培養ノモノ、抵抗力弱ハキハ宛モ裸体ノ
 人ト甲冑ヲ着シタル武者ト相異アルガ如キナリ故ニ今回予ノ述ブル純粹培養菌ノ抵抗力弱
 シトシテ實地ノ消毒ヲ寬フスルガ如キコトナカランコトヲ希望ス此事ニ付テハ現行消毒法ト咀
 嚼スルカ如キ感アルベキモ其實ハ決シテ咀嚼スルモノニアラス純粹培養ノ裸体菌ト糞便ノ
 甲冑ヲ着シタル菌ト異ナレバナリ是レ特ニ諸君ニ注意シテクノ必要アルナリ
 以上ノ外尙梗概ヲ述ベテクベキモノナキニアラスト雖モ各論ニ入り必要ニ應シテ之ヲ述ブベ
 シ

各論

虎列刺病

虎列刺病ハ歐洲ニ所謂アジアチック、コレラト霍亂性コレラトノ二アリアシアチック虎列刺ト
 ハ即眞性ノモノニシテ印度ニハ地方病トナリテ四時其跡ヲ絶タズ就中夏秋ノ候最も多シトス
 今述ベントスルハ眞性コレラ即印度コレラノ事ニシテ霍亂症ハ説ク處ニアラス
 歐羅巴ハ素ヨリ日本ニ於テモ昔時ハ眞性虎列刺病ナルモノハ嘗テ見ザリシモ交通頻繁ナルニ
 隨ヒ遂ニ印度ヨリ之ヲ諸方ニ輸送スルニ至リシモノナリ故ニ亞細亞コレラト云ハンヨリモ寧
 ロ印度コレラト名ツクベキナリ
 コレラ病ハ劇烈ナル傳染病ニシテ其原因ハ一種ノ細菌ナリ該病ノ初メテ歐洲ニ入りシハ多ク

ノ醫學者ハ熱心ニ其原因ヲ調べタルモ學理進歩セザリシ時代ナリシ故ニ久シク之ヲ發見シ得ザリシノミナラス本病ハ印度外ノ國ニハ一タビ入り來ルコアルモ連年繼續セサルヲ以テ充分ナル研究ヲ爲スコト能ハザリシナリ然ルニ西曆千八百八十二年(明治十七年)ニ至リ埃及ニ於テ該病ノ流行セシ時歐洲各國政府ハ何レモ原因取調ノ爲メ醫師ヲ派遣シ大ニ之ヲ研究セシメタリ此時獨逸ヨリハローベルト・ユツボ氏ヲ出張セシメラレタリシガ此人遂ニ一種ノ細菌ヲコレヲ患者排泄物中ニ見出シタリ然ルニユツボ氏ハ尙一層其學理ヲ探究センガ爲メニ其後印度ノカルユッタニ出張シ亦研究ノ末全様ノ菌ヲ見出シ愈々之ヲ確カムルニ至リタリ

傳染病豫防心得書虎列拉ノ部ニ云ク
 虎列拉ハ傳染病中ノ最モ猛烈ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當リテハ兇暴慘虐至ラザルナキコト世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ含ルガ故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ吐瀉物及之ニ汚染セルモノノ消毒法ニ遺漏ナカクシムルハ勿論患者發生ノ最初即チ病毒ノ未ダ散蔓セザル前ニ於テ十分消毒法ヲ行ヒ病災ヲ其一小局部ニ熄滅セザル可ラス
 ト然リ病毒ハ實ニ吐瀉物中ニ存在スルモノナリ本菌ハ之ヲユシマバチルスト稱シ聊カ彎曲シタル桿狀菌ニシテ患者ノ腸中特ニ小腸中ニ發育シ他ニハ殆トシテ生セサル位ナリ殊ニ血液内臟諸器中ニハ生スルモノニアラス只主トシテ小腸中ニアルヲ以テ瀉物ニハ特ニ存在スルヲ常トス

該菌腸中ニアルキハ一ツ宛切シ居ルコアリト雖モ大便中ニハ續キ居ルコトアルヲ以テ之ヲ螺旋狀菌ナリト誤認セシ人モアリシナリ然レモ本菌ヲアニリン色素ニテ染色セバ能ク染ムヲ以テ之ヲ鏡檢スルニ其狀 形ナシ居テ連續セルモノアルモ螺旋狀菌ニアラザルコト明カニ見得ヘキナリ

本菌ニハ其兩端ニ各一ノ鞭毛アリテ活潑ナル運動ヲナスモノニシテ肉汁培養基ヲ混濁ス又本菌ハ各培養基ニ發育スルモ只酸性ノモノニハ發育セズ故ニ中性ノモノ又ハ弱アルカリ性ノモノナラザル可ラス此菌ハ好氣性ニ屬スルヲ以テ主トシテ上面ニ發育スレモ膠質培養基ニハ漏斗狀ニ發育シ之ヲ溶解ス是此菌ノ特性ナリ
 温度ハ攝氏十五度以下ニテハ發育セズ十八度以上ニテ漸ク發育ヲ初メ三十七八度即体温ノペプトン水中ニ於テハ五時間モ經バ表面ニ能ク發育シ播殖甚ク速カナリ
 本菌ハ芽胞ヲ形成セズ之ヲ動物ニ試ムルニモルモツトノ如キハ最モ能ク感ス其法ハ先ツ其動物ノ胃液ヲ中和セシムル爲メ重曹水ヲ飲マシメ阿片丁幾少許ヲ腹腔ニ注射シテ腹ノ蠕動機ヲ制止シ而シテ後ユレラ菌ヲ飲マシムルキハモルモツトハ廿四時間乃至三十時間ニテ死ス虎列拉菌ハ飲食物ニ伴フテ消食器ヨリ入ルモノニシテ決シテ呼吸器及創傷等ヨリ傳染スルコトニアラス

故ニ人ノ此病ニ罹ルノ媒介ハ飲食物ニアルヲ以テ之ニサヘ注意ヲ怠ラザレバ決シテ恐ル可キモノニアラス若シ誤テ該菌ヲ飲ムコアルモ必スシテ該病ヲ起ストハ限ラズ是健康ナル人ハ胃液ノ分泌盛ニシテ其胃酸ハ克ク該菌ヲ撲殺スルノ力アリ然レモ又稀ニハ撲殺セラレザルモ發育セズシテ通過スルコアルヲ以テユレラ流行ノ時ニハ健康人ノ大便中ニモ該菌ヲ見出スコアリ故ニ流行時ニハ健康者ノ大便中ニ消毒セザル可ラス
 虎列拉病ニ罹リタル多クノ人ヲ紀スニ平素腸胃ヲ害セル人或ハ暴飲暴食ヲナシタル人等概

テ消食器ニ故障アル人多シ歐洲杯ニテ八月曜火曜日ニ此病ヲ發スルモ多シ是レ土曜日曜
 ニ暴飲食ナスモノ多キヲ以テナリ日本ニテモ祭日等ノ後ニ發病者多キガ如シ依テ以テ其飲
 食物ガ誘因ヲナスヲ明知スルニ足ルキナリ
 總テ病ニハ潜伏期アリ經驗上虎列刺病ハ三日乃至一週間ノ潜伏期ヲ有ス又コレヲハ該病ノ
 特有症候ノ去リタル后モ尙數日若クハ三週間患者ノ便中ニ該菌ノ存在スルヲ見タルコトアリ
 ト云フ

コレヲ菌ハ瓦斯ハ作成セサルモ其發育ニ伴フテ一種ノ毒即コレヲノトキシ^毒ナルモノ
 ナ産成ス該病ガ人ヲ斃スハ細菌其モノニアラスシテ細菌ノ爲メニ腹中ニ産出セラレタル此
 毒素ガ心臟ヨリ血液ニ混シテ全身ニ瀰蔓シ以テ死ニ至ラシムルモノナリ
 總論ニ於テ特ニ注意シタルコトナルガ純粹培養シタルコレヲ菌ハ抵抗力左迄強キモノニ非ラ
 ス温度ニテ云ハハ攝氏五十度乃至六十度ノ蒸氣熱ニ三十分以上ヲ經バ其菌ハ死シ化學藥ニ
 テハ二百倍石炭酸千倍昇汞水十倍石灰水ニ逢テ四五時間ニテ死シ又鹽酸ニテハ五百倍乃至
 二千倍ニテ發育ヲ止メ直射光線一時間以上ニテモ死スルモノナリ然レモ是レ純粹培養上ノ
 モノニ對スル試驗ニシテ大便中ニ存在スルモノハ糞便ニ包マレ蒸氣熱モ消毒藥モ容易ニバ
 クテリヤニ達セズ又他ノ細菌ヲ混シ且種々ナル障礙物アルヲ以テ純粹培養ノ如ク死滅シ易
 カラス從テ消毒藥モ亦濃厚ノモノヲ用ヒザル可ラス
 コレヲ菌ハ如此抵抗カ余リ強カラザルモノナレモ之ガ産成スル毒素ニ至ラハ然ラズ百度ノ
 温熱ニ逢フモ二十倍石炭酸水ヲ注クモ依然トシテ其働ヲ止ムコトナシ此菌ト毒素ノ働キトノ
 違フコトハ能ク會得シザカルハヲ要ス

腸窒扶斯

腸窒扶斯病ハ到ル所ニアリテ殊ニ公衆衛生ノ行届カサル地ニ於テハ年々發生其跡ヲ絶メズ
 遂ニ地方病ノ如クナルモノアリ此病原ハ一種ノ細菌即腸窒扶斯菌ナル者ナリ傳染病豫防
 心得書腸窒扶斯ノ序ニ云フ

腸窒扶斯ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ舍リ虎刺拉病毒ノ如ク不潔汚穢ノ土地ニ蕃殖瀰
 漫シ廣シ流行ノ勢ヲ成ス者ナレバ其豫防方法ニ至テモ虎列拉ト畧其趣ヲ全フス抑モ本病
 ハ六種傳染病中最モ多キ疾病ニシテ各地方年々其患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見サルコトナシ
 加フルニ流行時期ノ長キ病症經過ノ久シキヲ以テ公衆ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テハ却
 テ虎列拉ヨリ甚キモノアラントス故ニ本病流行ノ兆アルニ當テハ速ニ十分ノ力ヲ盡シテ
 之ヲ撲滅シ併セテ第二ノ流行ヲ豫防センコトニ怠ルカラントナ要ス
 本菌ハ患者ノ脾臟腸間膜腺及腸中ニアリ故ニ排泄物中ニハ必ス存在スル者ナリ而シテ一週ニ
 週ノ後皮膚ニ發疹スルコトアリテ此部分ニ病菌ヲ見出シタリト云フ人アルモ信シ得ラレズ
 本菌ハ桿狀菌ニシテ兩端少シク丸クナリ又二三連續シ居ルコトアリ而シテ此菌ハ組織中ノモノ
 ニ限リテハ加里ヲ加ヘタルメチユーレンブラット云フ染色液ニアラサレバ著明ニ染色スル
 能ハス該菌ハ全身ニ多ク鞭毛ヲ有シテ活潑ナル運動ヲナシ隨テ液体培養基ヲ混濁スレモユ
 レヲ菌ト反シテ膠質培養基ヲハ溶解セシメズ而シテ馬鈴薯培養基ニ於テ特異ノ播殖ヲナス通
 例他ノ者ハ表面ニ發育シテ聚落ヲナシ且種々ノ色ヲ出ス者ナレモ此菌ニ限リ薯質中ニ潜在
 シ深底ニ有リテ聚落モナサズ且色ヲモ出サズ瓦斯ヲモ作ナズ温度ハ十五度以下ニテハ發育
 セズ体温ニ保タバ盛ニ發育播殖ス

之ヲモルモット南京鼠等ノ腹腔ニ注射セバ其動物ハ必ス斃ル此時ハ人ノ如キ症狀ハ呈セザルモ死スルヲ以テ之ヲ証セラル而シテ之ヲ解剖セバ脾臟腸等ニ該菌ヲ見出ス時ニヨリテ血液

中ニ見出スアアルモ是ハ只注射ノキニ漏ル、モノナリ
本菌ハ消食器ヨリ入り來ルモノニシテ他ヨリハ來ラズ而シテ潜伏期ハ一週乃至二週ナリ下熱

后二週以上ヲ過キテ尙排泄物中ニ本菌ヲ見出シタリト云フ人モ是アリトモ云ヘリ
本菌ハ芽胞ヲ形成セサルモ抵抗力ハ虎列拉菌ニ比シ幾分カ強シトス本菌ノ診定上困難ナル

ハ健康人又ハ動物杯ノ大便中ニ普通大腸菌ナルモノアリテ其形狀全ク相同シ且之ヲ膠質、
寒天、血清等ノ培養基ニ培養スルニ兩者相同シキモ只馬鈴薯培養基ニ於テノミ相違アリ又

牛乳中ニ培養スルニ大腸菌ハ之ヲ固ムルモ窒扶斯菌ハ其儘ニテ牛乳ヲ固メズ又葡萄糖ヲ加
ヘタル寒天基ニ刺植スルニ大腸菌ハ瓦斯ヲ作ルモ窒扶斯菌ハ之ヲ作ラズ又肉汁培養基ニ於

テ兩者共之ヲ混濁セシムルモ大腸菌ニ於テハインドールスカトールヲ產生スルヲ以テ礦物
酸ヲ加フルキハコレヲ如ク赤色ヲ呈スレモ腸質扶斯菌ハ之ニ反ス

赤痢病

傳染病豫防心得書赤痢病ノ部ニ云フ
赤痢病ハ其病毒專ク患者ノ瀉下物中ニ舍リ之ヨリ傳染スルモノニシテ病性大ニ腸窒扶斯

ト類似スルモノナリ故ニ其豫防消毒ニ於テ略ホ腸窒扶斯ト全一ノ方法ニ據リ而シテ流
行時ニ於テハ瀉下物中ニ血液ヲ混セサル患者ト雖モ本病者ト全様ニ取扱フヲ要ス

抑本病ハ腸窒扶斯ト同シク頗ル慘毒ヲ逞クスルモノナルカ故ニ本病ノ年々發現スル地方
ニ於テハ土地ノ清潔ヲ力メ殊ニ飲料水ニ注意シ下水ヲ浚渫シ發病時ニ當テハ撲滅ノ方法

ニ十分ノ力ヲ盡シテ第二ノ流行ヲ防ク等總テ腸窒扶斯ニ於ケルカ如クナラシキヲ要ス
ト赤痢ノ恐ル可キト又年々流行實ニ其害毒ノ甚シキトハ云フナ疾々ナル所ニシテ公衆衛生

上實ニ研究ヲ要スル病タリ此故ニ學者モ非常ニ力ヲ盡シテ研究シツ、アルモノナレモ未ダ
以テ一定ノ原因ナルモノ、見出サレザルハ甚ダ遺憾ノ至リナリ然レモ現今最モ多クノ學說

ハ下等動物性即プロトツオンノ一種ナラントノ說殆ソ一定セルガ如シト雖モ未ダ培養等
ノ方法モ立タズ之ヲ証スルコト能ハサルヲ以テコレヲチフス等々如キ詳細ヲ知ルニ由ナシ

赤痢病患者ノ大便中ニハ一種ノ寄生体アリテ之ヲアメリヨトベト云フ是ハ顯微鏡ニテ檢スレ
ハ直ニ之ヲ見ルヲ得ベク且生活ノ狀態即運動等ヲ認メテ得ト云ハリ此アメリヨトベハ晉

テ埃及ニ於テ赤痢病ノ流行セシ際多ク存在シ且本邦ノ全病ニ付曾テ大阪ニ於テ北里醫學博
士カ調ベテレタル際モ確カニ之ヲ認メ之ヲ動物ニ試驗セラレシニ只猫ノミ之ニ感ゼリト云

ヘリ
而シテ此アメリヨトベナルモノハ泥沼濁水中ニ見ルコトアリ又ハ枯草等ヲ水ニ浸シ置ケバ其水

中ニモ亦アメリヨトベヲ生スルモノナリ而シテ其汚水中又ハ枯草ヲ浸シタル水中ニ生スルアミ
ヨトベハ其形赤痢病因トスルアメリヨトベト能ク相似タルモノナルヲ以テ或人ハ赤痢病排泄

物ニアルモノモ其病毒ニアラスト爲スモノアリテ此水中ノアメリヨトベト全一ナルモノナリ
トテ前說ヲ駁スルアルモ何シク學術幼稚ニシテ未ダ純粹培養等ヲモ爲シ能ハサルヲ以テ其

似テ非ナルコト立証シ得サルハ残念ナリ而レトモ一種ノアメリヨトベガ居テ其原因タルニハ
相違ナキモノ、如シ或人ハ此病モ亦細菌ニ因スト云フモノアレトモ確說ニハアラスト兎ニ角

此重要ナル病原ノ未ダ確定セラレザルハ遺憾ナルコトナルナリ

傳染病豫防心得書ヂアテリヤノ部ニ云フ

實布垚里亞(格魯布)ハ多シハ未成年者殊ニ幼童嬰兒ヲ侵シ其幼稚ナル者ハ症狀險惡ナリ抑モ本病ノ病毒ハ咽頭喉頭ノ如キ部分ニ舍リテ患者ノ痰唾鼻汁其他患者ノ使用セル衣服玩具等ノ媒介ニ依リテ傳染ス故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ患者ト健康者殊ニ兒童トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ小學校幼稚園等兒童ノ群集スル場所ハ往々本病傳播ノ中心トナルカ故ニ流行ノ兆アル場合ニ於テハ特ニ注意スルヲ緊要トス

其原因ガ實布垚里亞菌ナルヲハ獨逸人リヨフレル氏ニヨリテ見出サレタルモノナリ而シテ該細菌ハ桿狀菌ナレドモ儘不整ノ形狀ヲナスモノアリ或ハ不正三角形ヲナスアリ或ハ稍球形ヲ數個連續セル如キ等至テ不正ニシテ主トシテ患者ノ咽喉鼻孔氣管等局所ニ發スルモノニシテ本病菌ハ患者ノ痰唾等ノ中ニ存在スルモノナリ該病ハ時トシテ稀ニ内臟諸器ヲ侵スコアリ

該菌ハ運動ナキモノニシテ各種ノ色素ニテ能ク染ムモノナリ膠質、及馬鈴薯培養基ニハ發育鈍キモ寒天基ニグリスリシ又ハ葡萄糖ヲ入レタルモノニ於テハ極ク能ク發育ス又肉汁基ニ植ルルハ初メハ之ヲ混濁スルモ一定ノ時ヲ經レバ沈澱ス元來不運動菌ナルヲ以テ混濁セサルモノナレドモ暫時之ヲ濁ラシムルモノハ此菌ノ特性ナリ

該菌ハ高キ温度ヲ要スルモノニシテ二十度以下ニテハ發育セス廿三度ニ至テ漸ク發育ヲ初ムルナリ又本病ニ罹ルルハ其患部ニ於テ本菌ノ發育ニ伴フテ一種ノ毒素ヲ産成シ全身ノ血液中ニ吸收セラレ中毒ノ爲メ心臟麻痺ニ陥ルカ又ハ喉頭ニ生スル厚キ義膜ノ爲メニ窒息シ

テ死スルモノナリ

動物中南京鼠ハ甚ダ感シ難シ其能ク感スルハ羊馬山羊犬セルモツト等ナレドモ就中セルモツトヲ最トス然レモ是トアモ素ヨリ人ノ如キ症狀ハ呈セサルモ其部ニ硬結水腫狀ヲナス而テ廿四時乃至卅時間ニテ死ス之ヲ解剖スルルハ純粹培養ノ如ク其部ニ實扶垚利亞菌ノ發育スルヲ認ムル

該菌ハ主トシテ呼吸器ヨリ入ルモノニシテ消食器ヨリ來ルモノ比較的少ナシ而シテ時ヲ經ルモ芽胞ヲ形成セサルモノナルヲ以テ抵抗力ハ腸窒扶斯菌ト全一ナリ且潜伏期ハ二三自乃至一周間位ノモノナリ

細菌學ノ進歩ニ隨ヒ獨リ其細菌ノ性質形狀等ヲ研究スルニ止マラス進シテ其病菌カ如何ナルモノヲ産成スルヤ又之カ如何ナル作用ヲナスカヲモ檢索シ遂ニ血清療法ナルモノ起レリ

凡病的菌ノ人体及動物体ヲ死ニ至ラシムルハ二種ノ作用ニ因ス一ハ病原的細菌ガ血中及諸組織中ニ増殖シテ器械的作用ヲナシ一ハ病原的細菌ガ發育スルニ從ヒテ一種ノ毒素ヲ産成シ其毒素ヲ血中ニ吸收シ所謂中毒ヲ起スモノナリ

而シテ細菌カ産成スル毒素ハトキシシト云ヒ之ニ抵抗スヘキモノヲアンチトキシシ即抗毒素ト云フ

此毒素ヲ採リテ初メ其少量ヲ動物ニ注射スルニ体温昇騰シ大ニ衰弱ヲ來シ局部モ亦多少ノ異狀ヲ呈ス而シテ之ニ次テ稍多量ノモノヲ注射シ漸次強力ナル毒素ヲ注入スルニ遂ニハ初

感セサルニ至ルモノナリ之ヲ免疫法ト云フ
此免疫シタル動物ノ血清中ニハ毒素ニ抵抗シ得ルモノ即チ抗毒素ナルモノヲ産成シ居ルヲ
以テ此動物ノ血ヲ採リ靜置シテ淨澄シタル後其血清ノミヲ採リ之ヲ患者ニ注射シテ以テ治
療スルナリ血清療法トハ即チ此事ナリ此法ニヨリ治療シ得ルモノ今日迄ニ發見シタルモノ
ハ實扶埒利里及虎列拉ナリ

發疹室扶私

發疹室扶私ハ其病毒患者ノ身体ヨリ揮散シ傳染スルモノニシテ傳播ノ最モ迅速ナルモノ
ナリ其一タヒ流行ノ兆ヲ呈ハスヤ忽チ散漫傳播シ殊ニ貧民部落等群集雜居ノ場所ニ侵入
スルハ其家屋ノ不潔狹隘ニシテ空氣ノ流通不良ナルヨリ傳染ノ力モ一層猛劇トナリ全
部ノ人衆ヲ侵害スルニ至ル故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ速ニ患者ト健康者トヲ隔離ス
ルヲ專要トス而シテ貧民部落ニ浸入セルハ避病院又ハ療養所ノ開設貧民救療法ノ普及ヲ
怠ル可ラス

ト是レ傳染病豫防心得書中發疹ヲフスニ付テ述ヘタル所ナレバ該病原ニ付テハ今尙學者ノ
問題ニ屬シテ一定ノ確説ナシ然レモ是亦一種有機体ナル病原的物質ノ存スルキハ疑ヲ容レ
ズ故ニ吾人ハ如此病毒不明ノ病ニ對シテハ其豫防消毒法モ一層嚴密ニ施行シ假令其病毒ノ
如何ナル種類ニ屬スルモ是ヲ撲滅シ得ルノ方法ヲ執ルベキ事肝要ナリ

痘瘡

傳染病豫防心得書痘瘡ノ部ニ云フ
痘瘡ノ病毒ハ痘漿痘痂中ニ舍ルハ勿論患者ノ身体ヨリ發出スル蒸發氣中ニモ之ヲ含ミ傳

染力ノ強烈ナル迄ニ他病ノ上ニ出ツ故ニ一枚ノ弊衣ヨリ病毒ヲ傳ヤテ遂ニ無數ノ人衆ヲ
侵セルカ如キハ往々觀ル所ナリトス抑モ痘瘡ニハ種痘ノ如キ万全ノ豫防法アリテ能ク其
患害ヲ未然ニ防制シ得ヘント雖モ再三之ヲ反復セザレハ其効全カラサルヲ以テ苟シモ本
病發生スルハ健康者ニハ臨時種痘ヲ普及セシメ患者ニハ密ニ消毒法ヲ行ヒ二者相待テ
十分ニ病毒ヲ撲滅センコトヲ要ス而シテ從來ノ經驗ニヨリニ保母看護病人タル者親シク患者ヲ
介抱シ痘毒ニ汚染セラルルハ其手足衣服等十分ニ消毒ヲ行ハサルヨリ病毒ヲ傳播セシ
ムルノ例甚タ多シ深ク戒ム可キトス
ト痘瘡ハ實ニ數千年來年々流行ヲ見ルモノニシテ其害誠ニ甚ダシキモノナレバ未タ其原因
ヲ見出サレザルハ甚ダ遺憾ナリトス
或ハ云フ此原因ハプロトツオンシテモゾエシナリト既ニ日本ニモ此説ヲ敷衍シテ之ヲ
發見セリト云フ人アルモ只一二ノ實見ノミニシテ未ダ之ヲ是認スル能ハス
天然痘及牛痘ノ汁中ニハ數多ノミクロコクケン(球狀菌)存在シ或ハプロトツオンノ如キモ
ハ存在スルトアレバ果テ此等カ其原因ナルカ未ダ判然セズ彼虎列拉又ハチアプスノ如ク其病
毒菌ノ純粹培養ヲナシテ之ヲ動物ニ試ミ虎列拉菌ニテ虎列病ヲ發シチアプテリヤ菌ニテ實布
埒里亞病ヲ發スルカ如キ充分ナル試驗ヲ經タル者ニアラザレバ輕シク以テ其病原ナリト信
スルヲ得サルナリ
然レモ其原因ユツ不明ナリト雖モ幸ニ善那氏アリ種痘法ヲ發明シ此恐ルヘキ病ヲ確實ニ豫
防スルコトヲ得ル以上ハ今ハ決シテ恐ルヘキ足ラザルモノナリ去レバ漫ニ種痘ヲ怠リテ以テ
此救世者が無上ノ恩惠ニ背カサラシムコトヲ勉メサル可ラス

之ヨリ種痘ニ付テ少シク述ベチカントス

天然痘ハ往昔ヨリ世界各國ニ流行シ多數ノ人衆ヲ斃シ誠ニ慘害ヲ逞ラセシモノニシテ支那
印度邊ニテハ特ニ流行チ極メ居タリ支那ニ於テハ之ガ豫防法トシテ天然痘患者ノ痘痂ヲ摺
リ碎キ之ヲ吸入セシメタリシスレバ輕感シテ重症ニ陥ルヲ免カレ得ルモノナリト云ヒ
タリシガ此法エテハ儘劇症ニ陥リ爲メニ死ニ至ラシムルヲ往々アリシナリ
然レモ其目的ヤ弱毒ヨリ慣レシメテ以テ劇毒ニ堪ヘシムルニアリテ素ヨリ其目的ヲ達
シ得サリシトハ云ヘ今ノ血清免疫法ト其理相似タルハ當時ノ支那醫師ノ考トシハ非常ニ稱
賛スヘキ業タルナリ

今ヲ距ル百年前英吉利ノ某村落ニ於テ彼有名ナルセンチル氏牧牛婦人カ一種天然痘ノ如キ
モノニ感シ同時ニ之ト相似タルモノヲ其取扱ヘル牛ニモ發シ居タリシヲ見テ之ヲトリテ以
テ其家族ノ者共三種ニ試ミシニ彼牛ニ發シタルモノト全様ノモノヲ發シ且他ニハ蔓延セズ
シテ只其局部ニ止マリシ其後英吉利ニ天然痘流行セシ此接種ヲ施シタリシモ一切天
然痘ニ罹ラサリシカ爲メニセンチル氏ハ初メテ此事ヲ世ニ公ニシタリ

然ルニ時ノ學者中之ニ反對スルモノアリテ牛痘ヲ久ニ接種タルハ人ヲシテ牛ニ陥ラシムル
ナリトテ其極遂ニ英國ニテハ此良法ヲ禁止セラルハニ至リシモ歐洲中大陸諸邦ノ公平ナル
學者ハ此法ノ善良ナルヲ認メ實驗シテ非常ニ珍重シ之ヲ夫等各國ニ行ヒシノミナラス遂
ニハ以前之ヲ禁シタリシ英國ニ於テモ再ヒ之ヲ行フニ至リ吾邦亦數十年來此恩惠ニ浴スル
ヲ得タリ

爾來百年間種々ナル經驗ト研究ヲ經テ愈完全ナル法トナリ牛痘ヲ以テ全ク天然痘ヲ豫防ス
ヲ得ルニ至リタルハ偏ニ善那氏ノ賜ナリト云ハサルヲ得ス

痘漿ニニアリ牛痘漿及人痘漿ナリ牛痘漿ハ牛ヨリ採取シタル其儘ノ者ニシテ人痘漿トハ牛
痘ヲ接種シタル人ヨリ得タルモノナリ而シテ牛痘漿ハ一時ハ能ク感スレモ其牛休テ經ルノ
度數回ナルハ遂ニ牛ニモ人ニモ感シ難キニ至ル反之人痘漿ハ感受至テ良キヲ以テ一時大
ニ此人痘漿用ヒラレ、ニ至レリ然レモ是レ其業ニ拙ナキニ因ルモノニシテ牛痘漿ト云ヘド
モ其間ニ之ヲ人ニ接シテ其漿ヲ採リ再ヒ之ヲ人ニ接スルハ何レモ感受ハ良キモノタルナ
リ

種痘ニ反對說アリ曰ク人痘漿ヲ用フルハ傳染病(丹毒、梅毒、癩病、結核等)ヲ媒介スルノ
ミナラス又其人ヲシテ身體虛弱ナラシムト之ヲ考フルニ傳染病媒介ノ事ハ之ヲキニ非ザル
トシ其例亦少カラスト雖モ身體ヲ虛弱ニシテ夭死セシムルト云フニ至テハ其妄ナルニ驚カ
スレバ非ズ蓋シ種痘法ナカリシ時ニハ虛弱ナル小兒モ否ラサルモノモ天然痘ノ爲メニ斃サ
シタルモノ多カリシモ種痘發明后ハ種痘ノ爲メニ其死ヲ免カレタリ即チ多クノ死ス可キ虛
弱ナル小兒ハ種痘ニヨリテ夭折ヲ免ル、ヲ得タルナリ故ニ此等虛弱ノ兒モ皆他ト共ニ生長
シ爲メニ壯年ニ至リテノ死亡者比較的ニ多キヲ占ムルカハ知ラサレモ種痘ノ爲メニ壯年ニ
至リテ死亡スルト云フニ至リテハ妄亦甚シト云フベシ又傳染病媒介ノ事ニシテモ人痘漿ヲ
用ヒザレハ可ナリ又キニモ結核又ハ丹毒ノ如キハ之アルモ若シ牛ニシテ其疑アレバ之ヲ撲
殺シテ確カメラル、ヲ以テ牛痘漿ヨリ傳フベキ筈ナシ故ニ牛痘ヲ用フレバ此傳染病媒介說
モ亦取ルニ足ラサルノ說タルニ過ギズ

牛痘漿ハ人痘漿ヨリモ感シ難シト云フモ其事ハ種痘ノ際牛痘漿ハ少シク血ヲ見ル位僅ク是

ヲ接種シ痘漿ヲ摺リ込ム様ニスレバ善ク感スルモノナリ又醫師ノ注意ヲ要スルハ痘漿中ニ他ノ病毒アレバ余義ナキコナレトモ手術ノ際其用具ノ消毒不完全ナル爲メ丹毒杯ヲ傳フルコトアル是ナリ

牛痘ヲ作ルニハ先ツ健康兒ニ植ヘテ得タル痘漿ヲトリ之ヲ生后二三ヶ月以内ノ腋ノ腹部ヲ刺リ充分其部分ヲ消毒シ之ニ接種セハ三四日ニテ發疹五六日ニテ化膿面ヲ表スルヲ以テ其痘漿ヲトリ之ヲ消毒シタル乳鉢ニテ摺リ二倍ノグリスリンヲ入レテ硝子管ニ蓄フルモノナリ而シテ一疋ノ犢牛ヨリ得ヘキ痘漿ノ量ハ一管四五人ニ植ヘラルモノ四百乃至五百管ナリ又痘苗ハ之ヲ暖處ニナカバ漿中ニテ他ノ細菌杯發生スル恐アルモ能ク冷處ニ保タバ三四ヶ月ハ貯藏シ得ラルモノナリ

以上ハ傳染病豫防消毒心得書ニ基キ六種傳染病ノ病原ヲ述ベタルモノナリ尙本年橫濱ニペスト病アリ香川兵庫栃木ノ諸縣ニ回歸熱アリ本縣下ニ於テモ各地ニ發生ス何レモ本邦ニ管テナキ病氣ナルヲ以テ之ヨリペストヲ初メ丹毒破傷風結核回歸熱等ニ付キ其病原ヲ述ベテカントス

ペスト病ハ主トシテ住所土地等ノ不潔ナル所ニ流行ス歐洲諸國ニ於テモ昔時ハ支那人如ク不潔ヲ極メタリシヲ以テ該病流行シタリシハ漸次清潔法進ミ公衆衛生ニ注意スルニ至リテ遂ニ該病ノ跡ヲ絶ツニ至レリ然レモ亞細亞地方ニハ尙此病アリ殊ニ支那ニハ年々流行セリ恰モユンゴノ印度ニ於ケルガ如クペストハ支那内地殊ニ雲南地方ノ地方病ノ如ク爲リ居タリ故ニ交通開ケサリシ前ハ支

那ニ於テモ北方及沿岸地方ニハ此病ヲ見サリシモ一昨年廣東ニ出テ、香港ニ傳ハレリ支那人ハ之ヲ瘟疫ト稱ス瘟疫トハ他ノ病ヲモ稱スル名ナレトモ支那ニテハ重ニペストノコトニ用ヒラル

此病ニハ主トシテ支那人カ罹レリ現ニ先般橫濱ニ入港シタルゲーリック号ニテ支那人ノ火夫カ之ニ罹リタルガ如シ全体支那人ハ不潔ニシテ香港ニテモ其住家ハ立派ナルモ掃除杯行届カサルヲ以テナリ幸ニ本邦ニ於テ日本人ノ之ニ罹リシモノハナケレトモ之ヨリ益交通ノ頻繁ヲ來スナリ以テ何時其來襲ヲ蒙ルヤモ測ル可ラサルナリ

此病モ亦一種ノ細菌ニ原因スルモノニシテペスト菌ト云フ其形短キ桿狀菌ニシテアロリン色素ニテ染ムルハ其兩端能ク染ミ中央ハ染ミ方薄シ而シテ該菌ハ患者ノ血液并ニ腫脹シタル水脈腺及諸臟器中ニ存在シ屍体ヲ解剖セバ尙腦脊髓等ニモ存在シテ全身ニ充滿スルヲ見ル本菌ハ運動アルモノニシテ發育スルニ高キ温度ヲ要シ膠質培養ニハ二十度内外ニテ發育シ之ヲ溶解セシムルコトナシ寒天肉汁血精等ノ諸培養基ニモ能ク發育ス

本菌ハ芽胞ヲ形成セサルヲ以テ抵抗力ハ弱シユレテ、コトラス全様ト見テ可ナリ潜伏期ハ通例四日乃至七日位或病人ハ病歴上十四日以上ニ及ヒシモノモアレトモ其正否ハ知ルニ由ナシ而シテ動物ニ試ムレバ南京鼠モルモット兔等何レモ能ク之ニ感ス就中若キモノハ能ク感スレトモ老キタルモノハ感染遲鈍ナリ

本菌ハ最モ人体ニ侵入シ易キモノニシテ多クハ外傷ノ創口ヨリ入ル者ナリ香港ニ於テ流行セシ際西洋人ハ僅カニ三四名他ハ大概支那人ニシテ殊ニ下等社會ニ多カリシ蓋シ支那人ハ日常勞働ヲナスニ夏時ハ裸体且洗足ナルヲ以テ患者ノ十中八九ハ皆創口ヨリ細菌ヲ吸收

シ發病セシモノナリ其他呼吸器及消食器ヨリモ傳染スルモノ、如シ歐人ガ之ニ罹リタルハ
多分塵埃ト共ニ呼吸器ヨリ吸取セシモノナラン又兎又ハモルモットノ胃中ニ注入セバ直ニ
本症ヲ起シテ斃ルヲ以テ消食器ヨリモ感スルモノナラン兎ニ角本菌ハ三ヶノ傳染經路悉ク
防カサル可ヲサルナリ

結核病

人畜共ニ感シ易クシテ人ノ左迄ニ重キヲ置カズ却テ其害ノ遠ク他傳染病ノ右ニ出ルモノハ
結核ナリ

結核ナルモノハ人ニ在テハ肺結核最モ多ク腸及腺ノ結核之ニ次ク尙他諸機關モ亦之ニ侵サ
ルモノナリ動物ニ在テハ時ニハ山羊ノ如ク罹リ難キモノアレドモ牛馬羊等人類ニ必須ナ
ルモノハ皆多ク之ニ罹ル

肺結核ハ古來遺傳病中ニ數ヘラレン者ナルモ醫學ノ進歩ニ隨ヒ一種ノ細菌ガ其原因タルコ
トヲ發見セラレタリ往昔ハ何故ニ遺傳病トセシカ即チ一家ニ肺結核患者アレバ其一人ニ止マ
ラズ親子兄弟姉妹等大概之ニ罹ルヲ以テナラン然レドモ若シ遺傳スヘキモノナランニハ兩
親若クハ一親ガ結核ニ罹ラバ間ニ生シタル小兒ハ必ス亦結核ナルヘキ理ナリ歐洲ニ於テモ
種々ナル說アルモ遺傳論者トテモ傳染スルト云フコトニハ異論ナクシテ傳染ニ兼テ遺傳ナリ
ト云ヘルモノアリ歐洲ニテハ死体ハ必解剖スルコトノ良習慣アルヲ以テ該患者間ニ生レタル
初生兒ノ死体ハ必ス之ヲ解剖シ今日迄幾多ノ檢索ヲ遂ケシモ一トシテ此細菌アリシヲ見ス
只一回檢牛ニ之ヲ見シコトアルモ數千回中ノ一ニシテ殆ト皆無ト云フモ可ナルモノニシテ其
遺傳性ヲラサルコトヲ証スルニ足ル

該病ノ傳染性ナルコトヲ世ニ公ニシタルハ獨逸ノ解剖家ユートンハイム氏ニシテ其細菌所謂結
核菌ナルモノヲ發見セシモノ有名ナル古弗氏ナリ氏ハ今ヨリ十年前之ヲ發見シ該菌存在セサ
レバ結核病ハ起ラサルモノナルコトヲ証シ大ニ傳染說ヲ確カメ得タリ而シテ細菌ニ基因スル多
クシテ疾病中結核患者其多數ヲ占ム誠ニ恐ル可キ疾タルナリ

結核菌ハ通常ノ桿狀菌ニシテ時々多少其形ノ不整ナルモノアルヲ免カレズ此菌ハ特ニ復染
法ニアラサレバ染マズ
本菌ハ運動セサルモノニシテ人ニ於テハ肺腸腺皮膚等之ニ侵サレ其部分ニハ此細菌ヲ存ス
且患者ノ咯痰中ニ存在スルモノナリ

此菌ハ通常培養基ニハ發育セズ血清培養基カ否ヲサレバ肉汁若クハ寒天培養基ニグリズリ
シナ加ヘタルモノ又ハ含グリセリン肉汁培養基若クハ馬鈴薯ニシテ發育スルニハ三十度ニ
於テ初メテ發育ヲ始メ体温ニ於テ盛ニ發育スルモノナリ其速度ハ三十七八度ニ保タバ十日
自位カラ發育ヲ初メ三四週間ニ至ラサレハ充分ナル發育ヲ見ズ
虎列拉チフスノ如キ急性ナル疾病ノ菌ハ發育亦速カナレモ結核ノ如キハ慢性病ナルヲ以テ
細菌ノ發育亦甚ダ遲緩ナリ

之ヲ動物ニ試ルニ南京鼠ニハ普通ノ方法ニテハ殆ト感ゼズモルモット若クハ兎等ニ肺結核
患者ノ咯痰ヲ取リテ之ヲ試植スルニ常ニ其植ヘタル所ニ汁ヲ出シテ創口治スルコトナク十日
位ニテ處々水脈腺ニ結核ヲ生シ遂ニ七乃至九週間ニテ斃ル之ヲ解剖スルニ内臟殊ニ腺脾臟
肝臟肺臟等次第ニ侵サレ居ルモノナリ而シテ該菌ハ芽胞ハ作ラズレモ抵抗力ハ強シ攝氏七十
五度乃至九十度位ニテモ一時間ヲ經サレバ死スルコトヲ示シ石炭水ニテモコレヲチフスヨリ

毛強キ三堪フ
本菌ハ呼吸器消食器及皮膚等何レヨリモ傳染スルモノナリ其主ナル處ハ呼吸器ニ來テ肺結核トナルモノ最モ多シ故ニ本菌ハ多少略痰中ニアルモノナルガ故ニ患者使用ノ器械等其傳染ノ媒介ヲナスコト多クモノナリ
消食器ヨル來ルモノハ腸結核トナリ皮膚ヨリ來ルモノハ狼瘡トナルモ然レモ狼瘡ハ幸ニ此迄ハ日本ニハ少ナシ

破傷 傷 風
身體瘡癩シテ起ル病ニシテ以前ハ之ヲ脊髓病トシテ言フセシモ伊太利ノカセルラツト子一氏ハ其傳染病ナランコトヲ疑テ初メテ試驗セリ
氏初メ其膿ヲ兎ニ接種セシニ其兎此病ニ罹リ又此兎ノ膿ヲ他ノモノニ接種セシニ全ク此病ニ罹リシヲ以テ膿中ニ其病原アルコトヲ知シシナリ續テフスキニユラズ等テ諸氏ノ試驗ニヨリテ遂ニ細菌ヲ見出し病原ハ該細菌ナリト確定セリ

破傷風菌ハ桿狀菌ニシテ其形狀杓子ノ如キ形ヲナシ其上ノ太キ部ニ芽胞ヲ形成スルモノナリシテ只人体ノ外傷創口ノミヨリ入ルモノナリ本菌ハ膿中ニハ素ヨリ存在スルモ血液中ニハ入ラズ且芽胞ヲ形成シテ常ニ汚穢之泥土塵芥中ニ存在シ抵抗力非常ニ強ク且運動スルモノニシテ何培養基ニテモ酸素ヲ除キタルモノニアラザレバ發育セス之ヲ動物ニ接種スルニ鶏ヲ除キ他ハ大概之ニ罹ルヘキ性質ヲ有ス即患者ノ膿汁又ハ汚泥塵芥等ノ中ヨリ本菌アルモノヲトリテ之ヲ植フレバ必ズ此病ニ罹ル殊ニ馬杯ハ最モ能ク之ニ感ス
本菌ハ其發育ヲ伴フテ毒素ヲ産成ス次若シ此病ニ罹ルハコレヲ以テテラリヤ等如ク

此毒素カ血液中ニ入りテ人ヲ斃スニ至ルモノナリ此毒素ヲ利用シテ免疫法ヲ施ストテ得ルコト實ブテリヤト大同小異ノ方法ニヨル

丹 毒

本症ハ爪ニテ強ク搔キムシリスルカ又ハ外科手術ノ消毒不注意等ヨリ起ルコトモ往々アルモノニシテ一夜ノ中ニ炊衝シ全身ニ非常ノ強直ヲ來シ又非常ノ高熱ヲ發シ時ニハ四十度以上ノ熱ヲ一週間モ持續スルコトアリ且處々ニ水泡ヲ呈スルコトアルモノニシテ其原因細菌ナリ丹毒菌ハ球狀菌ニシテ連鎖狀ニツヰキ居レリ而シテ其局處ニノミ存在シアニリン色素ニテ染色シ能フ又寒天肉汁、血精等諸培養基ニ能ク發育ス且膠質基ヲ溶解セシメズ之ヲ兎ノ耳朶ニ接種スルニ局處ハ赤色ニ腫脹シ高熱ヲ發シ一週間ヲ出デスシテ耳朶落テ死ス其入り來ルハ創口ノミヨリス

回 歸 熱

日清戰爭ニ伴ヒ初テ我邦ニ侵入シタル熱性病ハ即チ此回歸熱ナリ本病ハ歐洲ニテモ以前ハ腸窒扶斯ノ一種トシタリシカ其否ヲサルコトハ細菌ニヨリア知り得ラレタリ人此病ニ罹ラハ三十九度乃至四十一度ノ熱ヲ發シ身體疲レ頭痛甚ダシク且苦悶ヲ覺フ斯クシテ其熱數日間持續シテ頓ニ平熱ニ復シ五六日乃至一週間ヲ過キテ又諸症前回ノ如ク發作スルニ至ル如此コトノ數回ニテ其經過中併發症ナキモノハ多クハ治癒ス其併發症ハ黃疸若クハ全身ノ水腫ヲ多シトス

二十年前伯林ノチーベルマイエル氏本病ノ細菌ヲ發見シタリ本菌ハ螺旋狀菌ニシテ發熱時ニハ必ズ患者ノ血液中ニ存在シ解熱時モ之ヲ存スルニ相違ナキモ全身中何レノ部分ニ潛メ

ルカ指頭等ノ血液中心ヨリハ見出し難シ是迄大便中ニハ見出しタルトナキモ兎ニ角排泄物ハ消毒セサル可ラス

此菌ハ人工培養ヲ爲シ難シ之ヲ猿ニ試植スルニ猿ハ全病ニ感シ甚キハ死ス他ノ動物ニテハ感スルモツ未ダ發見セズ其人ヲ侵スノ道ニ付テハ未ダ充分ナル研究ヲ遂ゲタルモノナシト雖モ血液中ニ存スル病毒ナルヲ以テ創面等ヨリ傳染スルハ勿論ナレモ次ニ疑フ可キハ消化器ニシテ其排泄物ニハ總テ能ク注意セサル可ラス空氣中ノ塵埃ニ混シテ呼吸器ヨリ入ルヤ否ヤハ疑問ニ屬スレモ概チコレナキモノト如シ

該病ハ歐洲ニ於テハ北部殊ニ魯西亞ニ流行ス伯林ノ如キハ魯國ヨリ輸入シテ此病者アリシモ一三年ニシテ撲滅セリ日本ニハ今日迄發セザリシモノナルニ然ルニ昨春廣島陸軍軍夫救護會病院ニ於テ軍夫一ノ熱性病ニ罹リ遂ニ此病ナランカノ想像ニテ其血液ヲ檢セシニ果テ此菌ヲ見出タリ是本邦ニテハ初發ニシテ元ハ軍夫カ金州邊ヨリ持歸リテモナラシテ次テ濱及東京養育病院等ニ於テモ十數名ノ患者ヲ發シ近時又栃木兵庫香川縣ヲ始メ本縣下ニモ所々流行ス衛生上誠ニ戒心セサル可ラサルコトナリ

以上十一種ノ傳染病ニ付其病原トセル大要ヲ述ヘタルヲ以テ之ヨリ豫防及消毒方ニ付テ述ヘントス

豫 防 消 毒

衛生家ノ注意ハ總テ健康人ヲシテ其健康ヲ保チ傳染病等ニ罹ラシメサルニ在ルモノニシテ出來得ル限リハ之ヲ勉メサル可ラサルノ義務アルモノナリ
凡テ傳染病ナルモノハ各病其原因ヲ異ニスルヲ以テ豫防消毒亦其趣キテ全ク異スト雖精要

スルニ一種ノ動植物性即有機體ガ其原因ヲナス者ニシテ畢竟豫防トハ此原因ヲ招カサルコトヲ勉メ消毒トハ其原因ノ有機體ヲ消滅セシムル方法ヲ云ナリ故ニ今左ニ各病ヲ通シテ之ヲ述ベ只其病ニヨリテ特ニ異ナル點ノミハ之ヲ舉示スルコトヲ怠ナラサルベシ

豫 防

傳染病豫防消毒心得書ニ云フ

傳染病毒ハ不潔汚穢ノ土地ニ入レハ容易ニ蕃殖蔓延スルモノナルヲ以テ平常上地下水ノ

改良ニ注意シ掃除ノ方法ヲ設クル等万全根治ノ策ヲ怠ラス用水ヲ純清ニシ住地ヲ乾淨ナ

ラシムルニ非ザレバ決シテ其流行ヲ免カル、能ハス故ニ人家稠密ノ地ニ於テハ銳意上水

下水ノ改良工事即チ水道暗渠布設ノ事ヲ計畫シ衛生上百年ノ長計ヲ成スヲ要ス

ト傳染病ノ豫防ト云ハ、飲料水ノ改良ヨリ急ナルハナク飲料水ハ無論清潔ナラサル可ナズ

故ニ地層ヲ多ク透シタルモノ又山中ノ清水杯ハ至極良好ナリト雖モ其水量ノ少ナキガ故

ニ多數ノ人口ヲ有スル市街等ニ於ケル飲料水及用水ト爲スニ適セス故ニ多クハ掘井戸ヲ用

ユ此掘井ニアラ至極深ク掘リテ所謂掘貫トシテ地層多ク透テ得タル水ニシテ地上ノ細菌ヲ

混セサル装置ヲダシタルモノナラバ細菌學上清潔ナル水トシテ可ナルモノナリ

然レモ右等モ構造ニヨリテ之ヲ不潔ト變シ從テ種々ナル細菌ヲ生ス彼釣瓶井戸ノ如キハ空

中又ハ塵芥中ノ細菌多ク其水中ニ入り込ミ居ルヲ以テ此等細菌ヲ除ク爲ニハ其水ヲ濾過セ

サル可ラス否ラザレハ其構造ヲ改メサルベカラズ少クモ蓋ヲ用フルコトハ必ス之ヲ爲サハル

ベカラサルナリ
井水ハ一家又ハ一小部落ノ用ニハ供セラル、ト雖モ市街杯ニテハ到底水量ノ不足ヲ訴フル

チ免レス之ヲ充スモソハ河水ナリ然レモ此河水ニハ其原ヨリ細菌杯モアルニシト雖モ下流ニ至テハ非常ニ不潔ナルモノナリ古來水ヲ濾過スルニハ木炭砂海綿等ヲ用ヒシモ細菌ハ除キ得ラレサリシナリバスタール氏ハ良好ナル濾過器ヲ發明シタレモ多人數ノ用ニハ供スベカラズ是於乎大市街ニハ水道ノ布設ヲ必要トスル所以ナリ其構造ヲ畧言セハ濾過池及貯水池ヲ作り河水ヲ濾過池ニ送り之ヲ濾過シテ貯水池ニ貯ヘテ市街中ノ各戸ノ需要ニ充ツル爲メ鐵管ニテ送ルモノナリ此濾過ハ單ニ細砂ノミヲ用ユルモノナレドモ普通ノ方法ト違ヒ極メテ精密ナル濾過ニシテ其水ノ速力ハ一時間百ミリ以下トルヲ流下スルニ過ギザルナリ如此濾過シタルモノト雖トモ細菌ノ皆無ハ望ムベキニアラズ然レドモ斯クスレハ殆ント無キニ至ルモノナリ通例健康水ト云フハ一立方仙迷ニ百以下ノ非病原的細菌アルハ許シアルモノナリ日本ノ井戸水ハ蓋モナクシテ非常ニ細菌多ク少クモ五千乃至一萬ハ居ルヲ常トス故ニ掘貫キニシテチシニテ出ス様ニスルガ良ケレモ止ムヲ得ザレバ通常ノ井戸ニテモ是ニ蓋ヲナシテ唧筒ニテ汲上クルモ亦可ナラン病原的細菌ヲ含ム水一リ一アル中ニ魯格兒カキ〇、〇六二五ヲ混スルキハ十二分間ニ又〇、〇九七八ナレハ十分間ニ又〇、〇一〇八ナレハ二時間ニ殺菌セラル之ニ重亞硫酸加里ヲ注入セハコロールガ還原シテ沈澱スルヲ以テ其澄水丈ヲトリテ用フレハ最早病原的細菌ハ居ラサルモノナリ如此事ヲナスモ可ナレトモ尙容易ナルハ煮沸ナリ煮沸サヘスレハ何菌モ確ニ殺菌シ得ラルナリ

如何ニ飲料水ヲ改良シタリトテ使用水ガ不良ニテハ無効ナリ假令ハ魯テ歐洲シロイツト云處ニ於テテフス流行ノ非飲料水ガ原因ナリトテ之ヲ改良シタルニ流行ハ依然タリシモ使用水モ共ニ之ヲ改良シタルニヨリテ初メテ減退シタリト云フ印度ニモ亦如此實例アリト云フ日本ニテモ水ヲ改良スレハ使用水ニマテモ之ヲ及ホサハレバ實際其効ナキナリ又飲料水ヲ不潔ニスルモノハ土地ナリ土地ノ不潔ハ一層水ヲ不潔ニスルモノナリ之ヲ清潔ニ保ツハ乾燥セシメサル可ラス濕ヘバ池中ノ諸物腐敗シ爲メニ細菌亦繁殖ス而シテ土地ヲ乾燥セシムルニハ總テ日常戸々ヨリ排泄スル汚水ヲ土地ニ浸込マシメサルヲ力メサル可ラス是下水溝渠ノ必要アル所以ナリ然レモ今日日本邦ノ有様ニテハ此溝渠トテモ鑛管ハ素ヨリ土管トテモ用ヒスシテ底ナシノモノ、ミナルヲ以テ汚水ハ何百年間モ浸ミ込ミタルモノナルガ故ニ其不潔實ニ云フ可ラス又糞池ノ如キモ之ヲ改メ少クモ不潔物ヲ入ル、モノハ充分ナル膝喰トナシテ滲透セシメサルヲ力メサルメカラズ西洋ニハ大小便ヲ肥料ニ用ヒサルヲ以テ下水管ヲ設ケテ共ニ流出セシムルガ故ニ至極便利ナレモ日本ニテハ如此事ノ出來ザルガ故ニ土地ヲ清潔ナラシムルコトハ甚ダ六ケシ然レモ六ケシ、トテ此儘ニ放棄セハ傳染病ノ流行ノ跡ヲ絶ツコトハ決シテアコソアルベキコトナシ故ニ大小便ハ之ヲ入ル、者ヲ改メ糞便汚水等ハ必ズ池中ニ滲透スルノ虞ナキモノヲ用ヒシムルニ至ラシメザル可カラサルナリ彼ノカルユツタ府ノ如キユシラ病ガ其地方病トナリ居ル處ニテモ英政府ガ熱心ニ上下水ノ改良ヲナシタル爲メ今ハ殆シト其跡ヲ絶タントスルノ有様ナリ日本ニモ如此セバ赤痢病ノ跡ヲ絶ツコト決テ爲シ能ハサルコトニハアササカ信ス上下水ノ改良ヲナシタリトテ呼吸器ヨリ侵入ス可キ傳染病即チ實扶埜里亞痘瘡結核等ノ

如キハ決テ之ノミニテ防ギ得ベキニアラス是ノ如キ疾病ハ塵芥ト共ニ其病原の細菌ヲ呼吸シテ胃サル、モノナルヲ以テ此豫防法ハ公衆衛生上ニテハ道路ノ改良等最必要ナルモノナレハ是トテ今日ニハ到底完全シ得ヘカラサルコトナリ兎ニ角如此患者ハ隔離ユリ最急務ナリ其醫學上治療法モ逐時進歩シ尙完全ナル豫防法モ出ルニ至ルベシ然レハ此事ハ各己カ注意ニヨラザレハ公衆衛生上ニテハ到底完全ナル豫防ハ望ミ得ラル、業ニアラス豫防ハ病氣ノ發生セサル前ニ屬スレドモ若シ一人傳染病ニ罹リタリトセンカ最モ必要ナルハ速カニ診斷ナシテ傳染病ナルキハ其患者一人ノ間ニ之ヲ隔離防遏シテ他ニ偵播セシメサルコトナリサル可ラス豫防法中是ヨリ緊要ナルハナキナリ

消毒

消毒法ニニアリ第一ハ理學的消毒法ニシテ第二ハ化學的消毒法ナリ理學的消毒法トハ熱度ヲ以テ病菌ヲ撲殺スルモノ即チ火力、氣熱并煮沸消毒等ナリ化學的消毒法トハ藥力ニアリテ撲殺スルモノニシテ即チ藥劑消毒ナリ

理學的消毒法

第一 火力消毒

豫防心得書ニ云フ

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒盡スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死体及病毒ニ汚染スルコト甚クシテ貴重ナラサル品ハ成ル可ク燒却スベシ
下蓋シ燒却ハ最モ安全ナルモノニシテ之ニ如クモノナキナリ

第二 氣熱 附 煮沸

心得書ニ云フ

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ氣熱ニ逢フキハ枯死スルモノナリ故ニ云々通常衣服ノ類ニ於テハ三十分間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ氣熱ヲ周チテ通シテ消毒スベシ

ト茲ニ一ノ注意ヲ要スルハ乾燥熱ト濕潤熱ナリ乾燥熱トハ空氣ヲ熱シテ濕氣ナキモノ濕潤熱トハ蒸氣熱即濕氣アル熱ニシテ心得書中氣熱アル是ナリ

高熱(即攝氏百度以上)ニ向テハ細菌ハ其抵抗力ナシト云フコト知レタルキハ何熱ニテモ全シキモノト考ヘ居タリシヲ以テ昔時ハ其地方ニ於テハ乾燥熱ノ消毒ヲ爲シタルモノアリ是レ衣服類杯ニハ至極損傷ノ恐ナキヲ以テナリ然ルニユツボ氏其他ノ試驗上百度ノ乾燥熱ニテハ未タ細菌ヲ殺スノ力ナキコト知リ得タリ即炭疽熱細菌ノ芽胞ヲ攝氏百度ノ熱空氣ヲ以テ熱セシニ此芽胞ハ決シテ枯死セザリシ反之硝子製德利(即ユルベン)中ニ於テ百度ノ熱蒸氣ヲ以テ之ヲ蒸シタルニ僅カニ數分間ニテ枯死セリ是レローヘルトユツボ氏消毒罐ノ起原ナリ

乾燥熱ト濕潤熱トヲ比較シテ消毒試驗ヲ爲シタルニ攝氏百度ノ熱蒸氣ノ殺菌力ハ乾燥セル熱空氣ノ百六十度乃至百八十度ニ相當セリ此乾燥熱ノ百七十八度トハ即チ物品ヲ焦カサシムル度タルヲ以テ此熱ニ觸ル、時ハ衣服其他ハ之ヲ損シ再ヒ使用シ得サルニ至ルベキナリ然レハ百度ノ蒸氣ハ一二ノ種類ノ品ヲ除リノ外ハ更ニ物品ヲ損傷ズルコトナキモノナリ又昔シハ蒸氣法ナルモノアリ蓋シ硫黃ヲ以テ室内ヲ薰蒸スル者ニシテ壁トナク硝子トナク四隅悉ク行渡リテ完全ナル者ノ如ク感セラレタレトモ細菌學上充分ニ之ヲ試驗スルニ更ニ

其効アル者ニ非ズ即或細菌ヲ室内ニ釣リ其室ヲ充分ニ薰蒸シ而シテ后其細菌ヲ培養基ニ植ヘシニ充分ノ發育ヲ爲スノミナラス之ヲ動物ニ試植セシニ何レモ其病ニ罹ルナリ故ニ今ハ此法ノ無効ナルヲ知リ得タルヲ以テ之ヲ用ヒサルニ至リタリ

蒸氣消毒罐ニテ炭疽熱ノ芽胞ヲ衣服ノ間ニ挿ミ入レテキ百度ノ熱蒸氣ヲ與フルニ僅ニ十五分間ニ死滅セリト云フ此炭疽熱又ハ破傷風ノ芽胞ハ病的菌中最モ抵抗力ノ強キモノナリ非病的細菌中ニハ百度ノ熱蒸氣ニテ三時間ニテモ尙枯死セザルモノアレドモ病原菌中ニテ已ニ發見セラレタルモノハ百度ノ濕熱ニテ死セヌモノハナシ尤モ未ダ原因ノ分明ナラサル痘瘡其他ノ如キモノガ若シ此等ヨリモ強キモノナランニハ此消毒ハ其モノニ對シテハ無効トナルヤモ知ル可ラザルガ如シト雖モ今日ノ處ニテハ如何ナル病的細菌モ枯死スルヲ以テ百度ノ熱蒸氣ニテ充分ナリトス併シナガラ此等試驗ノ成績ハ皆純粹培養ノモノヲ試ミタルモノニシテ實地ニ方リ消毒罐裝置ノ模様ト患者ヨリ直ニ得タル病菌トハ全時間ニテ其効ヲ奏スルモノニアラザルハ細菌抵抗力ノ部ニ於テ已ニ述ベタルガ如シ故ニ心得書ニモ三十分云々一時間ト定メラレタル所以ナリ

而シテ右ユツボ氏消毒罐ハ隨分是レヲ製造スルニハ費用ヲ要スル裝置ニシテ小町村ニ設置スルコトハ蓋シ難事タルナリ此故ニ心得書ニモ

熱氣消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒郷僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖モ要スルニ攝氏百度以上ノ熱氣ヲ以テ消毒スベキ物品ヲ蒸スルヲ得ハ足レルガ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目的ヲ達センコトモ亦難キニアラス今其一法ヲ舉クニバ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底面ニ孔ヲ穿テ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ設置シテ蒸氣ヲ通セシメ而

シテ其蓋ニ一小孔ヲ穿テ寒暖計ヲ挿入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ラシムベシ此裝置タル甚ダ簡易ニシテ費用ヲ要スル少ナキガ故ニ如何ナル地方ニモ之ヲ設クルコトヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ達シ得ルモノナリトス

ト誠ニ其要ヲ得タルモノト云フ可キナリ

又熱湯中ニ煮沸スルコトハ其効蒸氣熱消毒ト相同シキヲ以テ時ニヨリ又物品ニヨリ之ヲ應用スルモ可ナリ

化學的消毒法

藥劑消毒

化學藥中消毒力ヲ有スルモノハ非常ニ多シト雖モ吾人ハ消毒藥ヲ採用スルニ當リ各消毒力アル藥品ノ中ニ就テ熟考セザル可ラザル要點數項アリ即チ一般ニ用ヒ得ル消毒藥ヲ撰ブニハ左ノ四條件ヲ要ス

- 第一殺菌力ノ強キモノナラサル可ラス
 - 第二價直ノ廉ナルモノナラサルベカラズ
 - 第三常ニ得易キ藥品ニシテ缺乏ヲ告グルコトナキ品ナラザルベカラズ
 - 第四可成劇毒藥ナラスシテ通常人ニ放任スルモ危險ノ虞ナキ藥品ナラサル可ラス
- 以上ノ四點ヲ參照シテ之ヲ撰フベキナリ假令バ無水アルコロールハ消毒ノ効力強クシテ皮膚ニフル、モ害ナク身体ノ消毒等ニハ至極適當ナルモ其價甚ダ廉ナラス（研究所ニハ無水アルコロールト石炭酸ト昇汞水ヲ用フ）
- 昇汞ハ廉ニシテ消毒力強キモ猛毒藥ナルヲ以テ一般人ニ任セ得ベカラサルガ如シ往年ヨリ主トシテ用ヒラル、ハ即チ石炭酸ナリ其他昇汞、生石灰、石灰乳、コロール石灰、及加里石鹼

等アリ漸次解説ス可シ

(甲)石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸 五十分
九十五分

一般ノ消毒薬トシテ差支ナキノミナラス此藥品ニアラサレバ用ヒラレサル品モアリテ最モ需用廣キ消毒薬ナリ此石炭酸ニハ粗製ト純粹トアリ粗製ハ茶褐色ニシテ水ニ溶解シカタク純粹ノモノハ結晶体ニシテ溶液透明ナリ消毒薬トシテハ此純粹ノモノヲ用フベシ豫防消毒心得書ニ於テ石炭酸水ヲ以テ消毒スルニ守ルベキ件ヲ擧ケテ曰ク

一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スベシ

二 本品ヲ以テ器具、室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後淨水ヲ以テ更ニ拭スベシ

三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スベシ

ト十二時間以上浸漬スルコトハ前細菌性質中抵抗力ニ對シ長キニ過クルモノ思ヒテ抱シ人モアルナランガ蓋シ純粹培養ノモノト實地ノ病菌ハ前來述べタル如ク大ニ力ノ差アルヲ以テ斯クハナサレ可ラサルモノタルナリ

石炭酸ハ二十倍ヲ以テ初メテ水ニ溶解スルノ度トス即二十倍ヨリ強キハ水ニハ溶ケサルモノナリ之ヲ溶解セシムルニハ余程注意シテ行ハサレハ充分ニ溶解シ得サルナリ心得書ニ曰ク

本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、除々ニ水ヲ注キ全量二百分ニ至ラシムベシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用スルハ其効著シトス

ト此鹽酸ヲ加フレバ殺菌力強ク芽胞ノ如キモ容易ニ殺菌シ得ルニ至ルモノナリ

(乙)昇汞水 昇汞水一分 鹽酸五分
九百九十四分

昇汞水ハ消毒薬トシテ用フルニハ其撰定要件ノ一ナル劇毒薬ノ點ニ於テ欠クル所アルノミナラス又使用ノ途狭キヲ以テ寧ロ之ヲ用ヒサルヲ可トス假令ハ蛋白質ニ逢ヘハ凝固セシメテ消毒ノ効ヲ奏セサルコトアリ又毒薬ナルヲ以テ飲食器具ノ消毒ニハ用フベカラス又金属ヲ腐蝕セシムルヲ以テ之ニ使用スベカラサル等ノ如シ然レモ其價ノ廉ナルコトハ消毒薬中其比稀ナルヲ以テ町村經濟ノ困難ナル今日ニ當リテハ止ムナク暫ラク是ヲ使用スルコトヲ禁シ難シ故ニ其用途ヲ注意セバ之ヲ用フルモ強ク妨ゲナキ所ナリ

心得書ニ曰ク

昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルヲ以テ危險ヲ招キ易キノ虞アリ故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危險ヲ防カン爲メ本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色トナスカ或ハ昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ著色シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス

又本品ハ飲食器、玩具及ヒ飲料水ニ滲透スヘキ場所ノ消毒ニ用フベカラス金属若クハ糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解ハ又凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金属製器、糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フベカラス又金属製器ニ貯フベカラス本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ス淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

甲乙丙種ノ消毒薬ニハ「劇」キ藥ナリ飲むベからずト票記スヘシ

ト此ニ鹽酸ヲ加ルハ昇汞ガ蛋白質ニ逢フテ凝固セル蛋白昇汞ヲ造ルヲ防ク爲ナリ

(丙) 生石灰
石灰乳(十倍)

十倍トアレレ患者ノ排泄物等ニハ五倍ノモノニ非サレバ確實ナル消毒力アルモト認メ難シ是試験上得タル成績ナリ
消毒薬トシテ撰定ノ要件ヲ悉ク備ヘタルモノハ生石灰及コロール石灰ナリ
石灰乳ヲ作ルニハ一時ニ多量ノ水ヲ加ヘスシテ徐々ニ之ヲ注入スベシ
石灰ヲ水ニ溶解スルキハ上層ハ清澄シテ下底ニ沈澱ス此清淨水ハ石灰水ニシテ之ヲ攪拌混交シタルモノハ石灰乳ナリ此石灰水ハ石灰乳ヨリモ成分ヲ含有スルコト少ナキモノナリ
豫防消毒心得書ニ云ク

生石灰及石灰乳ハコレラ、腸チフス等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレバ吐瀉物、瀉下物、下水等ノ消毒ニハ絶テ之ヲ使用スルヲ良トス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物、瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入テ能ク攪拌スベシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ注ゲバ熱ヲ發シ崩壊スルモノヲ用フベシ又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取り九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スベシ但石灰乳ハ成ル可ク用ニ臨ミテ之ヲ製シ使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルコトヲ要ス

ト即チ之ヲ用フルニハ其攪拌ヲ怠ル可ラズ又石灰ハ空氣ニ觸ルレハ其作用ヲ弱カラシムルヲ以テ常ニ密閉セル蓋ヲ用ヒ用ニ臨ミテ石灰乳トナスヲ要ス

(丁) 格魯兒石灰水(即チ鹽化石灰水) (廿倍)コロール石灰五分九十五分
豫防心得書ニ云ク

格魯兒石灰水ハ便所、下水、井溜、床、床下、及土間等ノ消毒ニ用フ

本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

此品ハ一種刺撃性ノ劇臭アルモノニシテ其臭氣ノ弱強ニヨリテ其品ノ良否ヲ判セラル之ヲ水ニ溶クニハコロール石灰五分水九十五分トヲ混セテ放置セバ殺菌力アル部分ハ水中ニ溶ケテ不用物ハ沈澱スコロール石灰水トハ即チ此清澄水ニシテ石灰乳ノ如ク攪拌セザルモ妨ケナシ

此品モ亦空氣ニ觸ルレバ臭氣モ脱シ其力ヲ弱クスルヲ以テ之ヲ密閉シテ保チ心得書ニ示ス如ク用ニ臨テ作ルヲ可トス

(戊) 加里石鹼

心得書ニハ(戊)ニハ硫酸ヲ擧ゲタレモ使用上危險多キヲ以テ余リ之ヲ使用セザルガ故ニ予ハ北里博士ヨリ聞キ得タル加里石鹼ヲ以テ之ニ代ヘ述ヘ置カントス
本品ハ歐洲ニテハ廉價ナルモノナレモ本邦ニテハ高價ナリ故ニ一般ノ用ニハ充サレサルモノナリ

加里石鹼ニ二種アリ軟石鹼、黒石鹼ナリ之ヲ用フルニハ加里石鹼三分ニ熱湯百分ヲ入レ且石炭酸少許ヲ入ルレバ溶解ヲ速カニシ且消毒ノ力モ強ク殊ニ長ク貯藏スルヲ得ルモノナリ

消毒ノ方法

豫防心得書ニ云フ

第一 患者

傳染病者治癒シタルキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル后直ニ浴ヲ取

ラシム可シ
ト而シテ頭髮ハ加里石鹼ニ石炭酸水ヲ加ヘタルモノニテ洗フ可トス
昇汞水ヲ身体ニ付クルキハ爲メニ細キ發疹ヲナス人アリ故ニ望ムラクハ前日ニ昇汞水一滴
ヲ皮膚ニ滴シ乾クマデ放置シ試ミ翌日ニ至リ若シ其部ニ發疹スル人ナラバ石炭酸水ニテ拭
淨スルヲ可トス

第二 死 体

傳染病者ノ死体ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ歛ムベシ但成ルベク火葬スルヲ良
シトス

患者ノ死体ハ可成火葬ニ付スベシ日本ニハ古來火葬ノ良習慣アルヲ以テ傳染病ノ時等ニハ
別シテ是ヲ利用スベシ若シ止ムコトヲ得スシテ埋葬スルキハ棺中ニハ石灰ヲ入レ之ヲ深ク掘
リタル地底ニ埋葬スベシ又屍体ノ外部ハ必ス二十倍ノ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒セザル
ベカラス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病毒ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法ヲ施行ニ從事シタル吏員、人夫等ハ手
足ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スベシ但看病人、吏員、人夫ハ豫メ爪ヲ剪リ其間ニ汚
垢ヲキ様注意シオクベシ

誤テ手足等身体ノ病毒ニ汚染セシキハコロール石灰液又ハ二十倍石炭酸水ニテ消毒スベシ
序デニ記ス看病人杯ハ其自ラ食事ヲナスキハ其度毎ニ食器ヲ熱湯ニ浸シ消毒シテ之ヲ用フ
ベシ又食物ハ可成度毎ニ焚タル者ヲ食スルコトニ注意スベシ決シテ朝ノ者ヲ其儘晝ニ食シ晝

ノモノヲ其儘晝ニ食スル等ノ事ヲ爲スベカラス又看病人ハ井戸側、河等ニア汚物ヲ洗フ等
ノ事ハ斷シテ爲スベカラス

第四 患者、死体等運搬器

患者、死体等ヲ運搬シタル駕籠、釣臺、戸板ハ使用ノ都度周チク昇汞水又ハ石炭酸水ヲ
灌クベシ

如此器具ハ何レモ病毒付着スルコトアルモノナルヲ以テ此等ノ消毒ヲ怠ルキハ害ヲ流スニ至
ル元來此等ノ器具ハ扱者ニ於テ不潔ノ物トシテ是ヲ消毒スルヲモ厭忌スルヨリ或ハ放任ス
ルヤノ恐ナキニアラザルナリ注意ヲ要ス

第五 便所、井溜、下水等

虎列拉患者ノ吐瀉物、腸管扶斯、赤痢患者ノ瀉下物ノ入りタル便所ノ糞池、大糞地、肥料溜等
ニハ少ナク正糞便ノ量十分一ノ石灰乳若クハ格魯兒石灰水（此ノ用量ハ最底度ヲ示シタルモノナ
レバ多キニ過クルハ素ヨリ妨ゲナシ）
ヲ灌ギテ能ク攪拌シ其周圍ノ地面ニモ周ク右ノ消毒藥ヲ撒布スベシ但此消毒法ヲ施行シタ
ル糞地、肥料溜等ノ糞便ニシテ爾後新ニ患者ノ吐瀉物又ハ瀉下物混入セサルキハ一週間ノ
後普通ノ糞便全樣肥料ニ供スルモ妨ナク又其便所ハ消毒後之ニ通フモ妨ナシ

コレヲ患者ノ吐瀉セル土間ニハ其部分ニ充分石灰若クハ格魯兒石灰水ヲ灌キ吐瀉物ト共ニ
表面ノ土ヲ掘リ取りテ之ヲ人家遠隔ノ地ニ埋ムルカ成ル可クハ燒却シ其跡ニ尙右ノ消毒藥
ヲ撒布ス可シ

コレヲ患者ノ吐瀉物ヲ投棄シタル井溜ニハ其部分ニ充分石灰乳若クハコロール石灰水ヲ撒
布シタル後塵芥ヲ盡ク取除キテ燒却シ其跡ニ尙ホ右ノ消毒藥ヲ撒布ス可シ

コレヲ患者ノ吐瀉物ヲ混入シタル下水溝ニハ生石灰、石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ灌テ能ク攪拌シタル后多量ノ水ヲ灌テ疏通セシムベシ
 虎列拉患者ノ胃ハ其作用ヲ失ヒ居ルヲ以テ吐物中ニモ亦病菌ヲ存スルガ故ニ吐物ト雖モ決シテ散亂セシメサルコトニ注意シ是ニ全量ノ石灰乳〔五〕ヲ入レ能ク攪拌シテ少クモ二三時間之ヲ放置スベシ若シ此際コロール石灰ヲ用ヒントスルハ大便ノ量一升ニ對シ粉末ノコロール石灰ヲ普通ノ酒盃ニテ四杯位ヲ入レ攪拌シテハ二三十分ニテ病菌モ枯死シ消毒ノ實ヲ得ルニ至ルベシ

若シ患者ノ座浴ニ供シタル汚水又ハ患者着病人等ノ衣服ナド洗濯シタル汚水等ハ石灰乳又ハ石灰ヲ用ヒテ前ノ如ク消毒スヘシ
 又汚水ハ充分排除スルコトヲ怠ル可ラズ若シ汚水溜ニ病菌ノ侵入シ又其疑アルハ大下水ト雖モ亦石灰乳ヲ以テ充分消毒セサル可ラズ
 虎列拉病流行時ハ辻便所ニハ日々石灰乳ヲ入レテ消毒シ且健康者ノ糞便ト雖モ充分消毒ス可シ是レ流行時ニハ健康者ノ便中ニモ病菌アリシ實例アレバナリ
 排泄物ニテ汚シタル土地、敷石、タ、キハ等庭并ニ家ノ周圍又汚水溜等ニ付テハ可成濃厚ノ石灰乳ヲ用ヒテ消毒スヘシ

全第 六 衣服、器具、疊、敷物等

一傳染病者ノ着用セル衣服及患者ノ用ニ供シタル臥具蚊帳飲食器、藥用器、玩具其他患者ノ居室内ニ在リタル諸器具ノ類
 一看病人其ノ他病毒ニ汚染セル病家ノ家人消毒法ノ施行ニ從事セル吏員、人夫等ノ着

用セル衣服及ヒ手巾、足袋、靴、草履等

一患者ノ居室内ニ用ヒタル疊、蓆、敷物等ニシテ消毒ヲ必要ト認メタルモノ
 右ノ内衣服、臥具、蚊帳、等總テ織物、綿ノ類ニハ左ノ消毒法ヲ行フ可シ但汚染甚シク且高價ナラサル品ハ成ル可ク焼却スルヲ良トス

(一) 瀧熱消毒スヘキ物品ニ應シ攝氏百度以上ノ熱瀧ナ三十分乃至一時間以上周ク通セシム

(二) 煮沸熱湯中ニ三十分時間以上煮沸ス

(三) 石炭酸水浸漬石炭酸水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ラニ淨水ヲ以テ洗滌ス

(四) 昇汞水浸漬昇汞水中ニ十二時間以上浸漬シタル後更ラニ洗滌ス

陶器、金屬製器ニハ左ノ消毒法ヲ行フベシ
 (一) 石炭酸水拭淨石炭酸水ヲ以テ拭淨シタル後更ラニ淨水ヲ以テ拭淨ス

(二) 乾布拭淨屢々乾布ヲ交換シテ内外面ヲ能ク拭滌シ其乾布ハ速カニ燒却ス

其他ハ濕熱、煮沸、石炭酸水、昇汞水等ノ浸漬ヲ用フ但昇汞水ハ金屬製器ニ用フ可ラズ
 木製器ニハ前二項ニ依リ行フベシ但汚染甚シク且高價ナラサル品ハ成ルヘク燒却スルヲ良トス

漆器ニハ石炭酸水又ハ乾布ノ拭淨法ヲ用テ消毒スヘシ
 革製品ニハ石炭酸水ノ拭淨法ヲ用テ消毒スヘシ

疊、蓆、絨緞段通ノ類ハ石炭酸水ヲ撒布シ然ル后日光大氣ニ曝シ乾燥セシムヘシ但汚染甚シキモノ
假令ハ患者ノ吐瀉物瀉下物ノ浸潤セルモノコレヲ發疹テフス痘瘡患者ノ病室内ニ敷キアリタルモノ、類ハ燒却スヘシ
 廉價ナル品ニテ消毒費ヲ償フニ足ラサルモノハ無論燒棄スヘシ

患者ノ衣服夜具等ヲ洗濯スルニハ加里石鹼液又ハ石炭酸水ヲ用フ加里石鹼液ナラハ廿四時

間石炭酸水ナラハ十二時間浸漬スヘシ

襦袢其他褌衣等蒸氣消毒所ニ送ルニハ必ス石炭酸水ニ浸シタル風呂敷ニテ包ミ接合緊密ナ

ル箱ニ納メテ後々持行シベシ否ラサレバ病毒ヲ散落セシムルノ恐アルナリ

洗濯シ難キモノ即チ洋服類ノ如キモノハ藥ヲ用ヒズ直ニ蒸氣消毒ニ付ス可シ

革類又ハ革製品ニハ蒸氣消毒ヲ用ユ可ラス石炭酸水又ハ鹽化石灰水ニテ拭淨スルノ外ナキ

ナリ

木製又ハ金屬製等ニテ蒸氣熱消毒ニ付シ難キモノハ石炭酸又ハ加里石鹼ニ浸シタル布ニテ

充分ニ拭淨スベシ

疊又ハ板床ノ如キモノハ石炭酸昇永水又ハ加里石鹼ニテ拭淨スベシ或場合ニハ石灰乳又ハ

鹽化石灰ニテ消毒スルコトモアルナリ此等ノ場合ニハ少クトモ二時間ハ其儘ニ放置スヘシ直

ニ水ニテ洗ヒテハ其効ナシ

又蒸氣消毒モ藥力消毒モ出來サルモノニ付テハ無據直射スル日光ニサラシ強ク乾燥セシメ

決シテ濕ハシメサル様ニ注意シテ六日間是ヲ續カシムベシ

全第七 患者ノ居室

傳染病者ノ居室其他消毒ヲ必要ト認メタル室ハ先ツ室内ノ疊、敷物ヲ揚テ 此疊敷物ノ消毒ハ前項ニ依ル可シ

室内各部床及床下ヲ掃除シテ其塵芥ヲ燒却シ 床及床下ニ吐瀉物滲漏セルハ石灰乳若クハ格魯兒石灰水ヲ十分ニ撒注スヘシ掃除後昇永

水又ハ石炭酸水ヲ以テ室内各部ヲ叮嚀ニ拭淨スヘシ

右ノ消毒法ヲ了レハ後ハ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スルマテ家

人ノ起臥ヲ爲サシメサルヲ可トス但雨天ノ日ニ於テハ火氣ヲ以テ乾燥セシム可シ

病室ノ壁ハ可成石灰乳時ニハ石炭酸水ニテ消毒スベシ

病室ハ消毒后少クモ廿四時間ハ開放シテ空氣ヲ流通セシムベシ但夜間ハ之ヲ鎖シ晝間ノミ

空氣ヲ流通セシムベシ

患者ハ疊ノ上ニ直ニ臥セシムヘカズ故ニ汚物等ヲ滲透セサラシムル爲メ疊ノ上ニ油紙ヲ敷

キ其上ニ寐具ヲ敷キテ臥セシムヘシ

第八 蒸氣車

ユレテ患者アリタル蒸氣車ノ車室ハ先ツ吐瀉物ヲシテ汎ク散漫セシメサル爲メ石灰、石

炭焚屑、灰、砂、鋸屑等ヲ撒布シ之ヲ取り除キテ燒却シ車内ノ消毒ハ前項患者居室ノ消

毒法ニ準スヘシ但車室ニ附属スル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

蒸氣車ノ檢疫ハ非常ニ困難ナルモノナリ船ニハ政府ヨリ其時々檢疫停船規則ヲ適用シテ取締

ルヲ得ルモ蒸氣車ニ至テハ此事出來難シ

歐洲ニテモ色々説アリ即ベツテンユーヘル氏ノ如キハ一切其効ナシ蓋シユレテノ如キハ時

ト土地トニ關係ヲ有スルモノナレハナリト云ヘリ然レモ細菌學上ヨリ之ヲ論スレバ決シテ

之ニ今意ヲ表スヘカラス即流行地ヨリ來リシモノ、身体衣服等ニハ如何ニシテ病菌ノ附着

シ來ルヤ期ヌヘカラス故ニ獨逸ニ於テモ之ヲ行ヒ日本ニテモ亦之ヲ行ヒ居レリ然レモ其方

法ニ至テハ甚ダ六クシキモノナリ

蒸氣車檢疫ニテハ若シ患者カアリシ時ハ迅速ニ事ヲ運フテ最要件ナリ

蒸氣車ノ便所ハ甚ダ危險極マルモノナリ昨年臨時檢疫局ニ於テモ其説アリシトノ事ニテ鐵道

局ニ注意セラレタル起ナルモ實地ハ行ヒ得ラレサリシ只下ニ漏ルコト止メ且上厠ノ度毎ニ水ニテ流シ汚物ノ附着シタルモノヲ能ク消毒スレバ可ナルコトナレモ何シク迅速ヲ貴フ瀧車ノコトナレハ是サヘ實ニ六ケシキコトナルナリ又停車場毎ニ飲水ヲ供ヘアルモ之レハ是非蒸沸水ニセサル可ラズ

瀧車ニ患者アルヲ發見シタルモハ其患者ヲ直ニ其他ノ隔離所ニ入レ其瀧車中ハ一般ノ方法ニヨリテ消毒スベシ外國ニテモ以前ハ之ニ蒸氣法ヲ用ヒタレモ今日ニテハ其無効ナルコトヲ發見セリ其消毒ハ石灰乳又ハ石炭酸ニテ消毒シ尙有病列車ノ取外ツシ其他ノコトハ成文ニテ取定メラレタルモノニヨルベシ

全第九 船舶

一傳染病アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フベシ但其船舶ハ消毒法ヲ行フニ先テ人家及他ノ船舶ニ隔リタル所ニ廻航セシムルヲ要ス

一患者アリタル船舶ハ先ツ室内ノ臥具、戸帳、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依テ消毒シ室内各部ヲ掃除シ次ニ昇水又ハ石炭酸水ヲ用テ室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叮嚀ニ洗滌シ爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣、ノ流通ヲテ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ル可ラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシム可シ

一患者アリタル室ノ外ト雖モ病毒汚染ノ疑アル場所及不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗滌スベシ

虎列拉ニ於テハ前二項ノ外尙左ノ方法ヲ行フ可シ

一患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗除スベシ

一吐瀉物滲漏ノ虞アルモハ消毒藥ヲ濯キ船底ニ滯留セル汚水ヲ排除シタル后水ヲ以テ之ヲ洗滌スベシ

一船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗滌スベシ
船舶檢疫ヲナシテ停船スルト云フコトニ付テハ羅馬ノ万国衛生會議ニ於テ非常ニ議論アリシモノニシテ英國ヨリハ停船セサルノ説ヲ出シ獨逸ヨリハユツホ氏出テハ七日間停船ノ説ヲ

出シタリシ等ニテ遂ニ五日ニ決シタリ

此等ハ各政府ニ於テ定ムル所アリテ或國ニテハ二週間モ停船スルコトアリ香港ニテハペストアリシキ等ノ如シペストノ如キハユツホ氏病全様一週間ニテ可ナルモノナリ

流行地ヨリ來ル船舶ニ付テハ其病氣ノ有無ヲ糺スヲ先トシ若シ患者アリタレバ充分ノ消毒法ヲ行ヒテ患者ハ隔離スベシ

又流行地ニ長ク居シ船若クハ患者アリシ船等ヲ消毒スルニハ陸上ノ家ト略相全シクシ只船底ニハ水アルヲ以テ此水ヲ能ク消毒セサルベカラズ蒸氣罐アル船ニテハ之ヲ利用シテ可成蒸氣消毒ヲナシ他ハ石炭酸水又ハ石灰乳ヲ用フベシ

船底水中ニハ種々不潔物入り居リテ瀧船杯ニテ全ク之ヲ除クコトハ爲シ得ベカラサルヲ以テ此場合ニハ昇水又ハ石灰乳ヲ以テ消毒スベシ

獨逸海軍一等軍醫ノフス氏ノ試驗ニヨレハ此船底水中ニハ十四日間ユツホ氏菌生存シ居タルコトナリ以前ユツホ氏ハ船底水中ノ消毒ニハ昇水ニテ消毒シタリ其法ハ即一定ノ昇水ヲ船底ノ中ニ入レ其反應ヲ見ルナリ是ハヤスリニテ能ク磨キタル銅板ヲ昇水ヲ入レタル處ヨリ最モ遠キ他ノ一方ニ浸スニ其銅若シ灰白色又ハ灰白青色トナリ昇水反應ヲ見ハサバ初メ

テ反應ヲ見得ル時其昇汞水ハ凡五千倍位ノモノナリ一萬倍ニモナレバ殆ト此反應ハ呈セズ此五千倍位ノモノナレバ三十分以上ヲ經過セバコレラペストノ純培養菌ハ共ニ枯死ス是ハコレラ菌ニ對シテハ十年以前已ニコレホ氏ガ驗定シタルモノナリ此法ハ消毒ノ効アルモノナレハ船ヲ損害スルコト少カラス即船底ノ金屬ヲ腐蝕セシムルヲ以テナリ其後ノフス氏ハ石灰乳ヲ用ヒタリ石灰乳ニテモ器械杯ニ付キテ困ルコトアルモ是ハ舟夫ナシテ掃除ヲ爲サシムレバ可ナリトノフ氏ハ云ヒ居レリ船底ニハ左迄器械ハナキヲ以テ石灰乳ニテ差支ナシ甲板并下等室モ之ヲ用ヒ只上等室等ニハ石炭酸水ヲ用井ザルベカラス

以上ニテ傳染病豫防消毒心得書ニ關スル事項ハ概畧終リタルモ尙コレヲ病其他取扱上ニ付キ特ニ注意スヘキコトヲ左ニ述ベントス

虎列拉流行時ニ際シテハ疑似ノ病者ハ之ニ準ジテ取扱フハ勿論ナリト雖モ其初發ニ於テハ特別ニ注意ヲ要ス一人ノ爲メニ幾千万人ノ害ヲ招クコトハ衛生上最モ防ガサルベカラサルコトニシテ之ヲ怠リシ爲メ慘害ヲ一世ニ逞セシコトハ古來其例實ニ少ナカラサルナリ獨逸ニハ二年以下ノ小兒ハコレヲ病ニハ侵サレサルモノトシテ取扱アレモ本邦ニ於ケル實例ニヨレバ二年以下ノ小兒ニモ其大便中ニコレヲ菌ヲ見出シタルヲ以テ豫防上ニ於テ決テ取扱ニ差違アルヘキニアラサルナリ又疑フベキ患者アリシキハ全種類ノ病氣其近方ニアラヤ否ヤハ之ヲ調ヘサルベカラス又稍流行スルキハ互ニ相集合スル事即市場劇場興行等ハ之ヲ止メ暴飲食等腸胃ヲ害スルコトハ之ヲ爲サシメサレ様注意スルハ必要ノコトナリ

學校近方ニ於テ該患者アリシキハ他方ヨリ通學スルモノハ當分登校ヲ止メ又流行局部ヨリ來ル生徒モ登校ヲ禁スルヲ可トス蓋シ健康者ノ交通ト雖モ時ニ媒介ヲナスノ恐アルヲ以テナリ

虎列拉流行時流行地ヨリ入り來ル人ハ素ヨリ、物品殊ニ飲食物及古着等ニハ最モ注意シ且全地方ヨリ來リシ人ハ可成潜伏期間ハ醫師監督ノ下ニ置カシムルヲ可トス然レモ旅客ノ損害等ヲ來サシメサル様注意ヲ要ス

川船杯ニモ亦注意ヲ要ス川下ニ其病毒ヲ傳ヘタル例乏シカラズ虎列拉流行地ヨリ來ル物品ハ消毒ヲ要スレモ郵便物ノ如キ靴キタル品ニ付テハ余リ其必要ナシ然レモ此等ヲモ消毒スル國モアルナリ

患者ヲ避病院又ハ隔離所ニ送ルニハ可成一定ノ麻駕又ハ麻臺ヲ用フベシ患者死亡シタルハ可成速ニ死屍ヲ片付クベシ而シテ可成火葬スルヲ良トス

虎列拉流行時ニハ販賣飲食物ニ注意シテ若シ其品病毒傳播ノ媒介ヲナスノ疑アルキハ速カニ之ヲ禁スルコトヲ怠ル可ラス

飲料水ト使用水トハ別シテ注意ヲ要ス患者ノ發シタル近方ノ井戸ハ其使用ヲ止メ七日或ハ十日ヲ經過シタル后之ヲ浚渫シテ使用ヲ許スベシ

便所ハ病氣ガ其場所ニ流行セサルキハ通常ノ通り汲上ケシメテ可ナルモ一區域内ニ流行シタルキハ健康者ノ排泄物ト雖モ必ズ一定ノ消毒ヲナシテ后汲取ラシムベシ先年獨逸ノハンブルグニコレヲ病流行セシキ健康人ノ大便中ニコレヲ菌アリシコト澤山アリタリ此人等ハ皆直接又ハ間接ニ患者ニ觸レタルモノナリ蓋シ前ニモ述ベシ如ク虎列拉菌ハ健康人ノ

胃中ニハ繁殖セズ然レトモ或場合ニ於テハ該菌ハ胃中ニ死セズシテ其儘糞便ト共ニ下通スルコトアリ其時其人ハ之ニ感セサルモ是ヨリ更ラニ他ノ人ニ至ル時ハ速カニ傳染ス故ニ流行時ニ於テハ健康者ノ糞便ト雖其消毒ハ實驗上爲サ、ルベカラサルコトナルナリ
患者ハ成ヘク何人ト雖モ一般ニ避病院又ハ隔離所ニ送り健康人ト隔離スベシ故ニ上等ノ人ニテモ入り得ル様ノ病院トセサルベカラズ
患者ノ發シタル家ノ消毒ハ法ノ如クシ之ト今時ニ其病ノ系統ヲ調べ之ニ溯リテ豫防消毒ヲ爲スコトハ必要ノ事タルナリ

衛生委員杯ノ設アル所ニテハ該委員ハ各戸ニ就キ可成親切ニ健否ヲ調べ一般衛生上ノコトニ注意スルハ勿論井戸便所等ニ付テハ最モ注意監督スベシ
又消毒藥ニ付テハ兎角誤用ノ弊アリ彼ノ霧吹ニテ石炭酸ヲフキ人ノ出入ニハ是ニテ安心スル如キ只僅カニ其形チノミヲナシ不充分ナル消毒ニ安シテ却テ病毒ヲ蔓延セシムルコトハ實ニ恐ルベキコトナリ如此事ハ衆庶ヲシテ能ク承知セシメサルベカラズ
通常人ナシテ流行時ニ方リ病毒ノ性質ト注意方トナ知ラシメテクコトハ衛生家ノ怠ルベカラサル義務ナリ即チ細菌ノ所在又其病菌傳染ノ理由及経路等其他衛生上注意スヘキ要點ナリ
猥リニ畏怖シ畏怖ノ爲メニ消食機能ヲ妨ケ遂ニ胃中ニ於テ病菌ノ發育ヲ防ク能ハスシテ罹病スルコトハ其例乏シカラサルヲ以テ如此ハ決シテ之ナカラシムル様安心セシムルハ衛生家ノ任務ナリ然レモ又コレヲチフス杯皆一種ノ細菌ニ過ギズ此位ノコトナラバト輕視セシムルコトハ決シテ爲サシムベカラサルコト蓋シ細菌ナルモノハ至微至細ニシテ其害ヲ爲ス實ニ巨大非常ナルモノナレハナリ

一人ノ患者アリテ之ヲ快復期ナラサルニ他ニ移ストカ又快復期中他ニ行カシムル等ノコトハ余程注意ヲ要ス彼ノ虎列拉ノ如キハ常人ノ如クナリタリトテ一週乃至三週間ハ其便中ニ細菌ヲ存スルコトアルナリ是レ其人ハ已ニ免疫シ居ルヲ以テ仮令体中ニ細菌アルモ其害ヲ受ケサレトモ之ヲ他人ニ傳フレバ他人ハ其病ニ罹リ延ヒテ衆庶ニ及ボスコトアルヲ免レサルナリ
又虎列拉流行地ヨリ來リシ人ハ親屬等ニテモ可成止宿セシメサル様ニ注意スヘシ流行地ノモノハ健康者ニテモ其病毒ヲ齎ラシ來ルノ恐アルヲ以テナリ
又虎列拉流行時ニハ至テ規則正シキ生活ヲ爲サシメサルベカラズ即チ平常ニ異ナリテ特更ニ食物ヲ改ムル等ノコトハ宜シカラズ是レ通常人ニ有リ勝コトナルヲ以テ注意ヲ要ス從來ノ實驗上罹病セシハ必ス消食器ニ異常アリシニ起因スルモノ多キニ居ル蓋シ事ヲ改タル爲メニ消食器ヲ害スルアルハ生理上免カレサルコトナレハナリ乍去生物不消化物及生水又ハ多量ノ飲料ヲ飲ミ胃液ヲ稀釋ナラシムルコトハ素ヨリ之ヲ避ケシメサルベカラズ
虎列拉流行時ニハ少シノ下痢ニテモ直ニ診察ヲ受ケシムベシ又患者ヨリ出タル疑アル食物ハ決シテ食スベカラズ不得止場合ニハ一旦煮沸シテ食スヘシ
汚水下水等ノ慘透スル不潔ナル水ハ決シテ使用セシムベカラズ流行時ニハ凡テ水ヲ煮沸シテ用ヒシムベシ之ハ飲料水ノミニアラズ使用水モ亦斯クセザルベカラズ
患者ハ可成自宅治療ヲナサシメサルコトニ注意シ親屬其他ノ交通ハ之ヲ禁シ且多數人ノ寄合等ハ警察的ニ之ヲ禁スルニ止ラズ一己人ニ於テモ之ヲ爲サハルコトニ注意スベシ
患者ニテハ飲食喫煙ヲ避クベシ
汚物ヲ河井ニ井戸側等ニテ洗ハシメサル様注意スヘシ

患者又ハ又衣服物品ニ觸レタル儘他事ヲ爲シ又ハ食ヲトル等ノコトハ決シテ之ヲナシムヘカラズ

屍体ヲ患家ニ長ク置カシメサルハ素ヨリ可成火葬トナシ且汚染物等ハ速カニ之ヲ消毒シ荷シモ患家ニアリシモノハ消毒ノ上ニアラサレバ決シテ之ヲ他ニ出サシムヘカラズ

賣藥等ニ其心ヲ安ンセシメサル様注意スヘシ
兎ニ角病メハ直ニ診察ヲツケシメ其病傳染病ナリシキハ其最初ノ一人ニ於テ豫防消毒ヲ嚴重ニシ決テ他ニ傳染セシメサルコトニ注意セサル可ラス曾テ或國ニ於テハ六十人以上全種ノ病氣ニ罹ラサレハ傳染病ト見做サ、ル事アリシト云フ蓋シ學術ノ發達セザル以前ノコトニシテ今ヨリ想ヘバ誠ニ笑フ可キガ如キ事ナリシ

從前ハ治療法充分ナラサルモノアリシモ今ハコレヲザアテリヤノ二病ハ已ニ血清療法モ發見セラレ發病後餘程經過シタルモノ又ハ死ニ瀕スルモノナラサル限りハ之ヲ治シ得ラル、ヲ以テ少シモ早ク醫師ニ就キ治療セシムルコトニ注意スヘシ何病ニテモ全シト雖モ傳染病ハ殊ニ初期ガ大切ナルモノナリ

以上ハ一般注意スベキ事ニシテ特ニ虎列拉赤痢及腸窒扶斯等ニ付テ述ベシモノナリ此
外ノ病ニ付左ニ特異ノ點ヲ舉示ス
實布埜里亞、肺結核等呼吸器ヨリ來ルモノハ其病毒略痰ノ中ニアルヲ以テ最モ嚴重ニ之ヲ消毒スベシ其患者使用ノ夜具蒲團手拭等其他ノ消毒ハ一般消毒法ニ依ルベキモ重キナ大小便ニチカズシテ略痰ニ置クノ相違アルノミナリ
肺結核患者ノ略痰ヲ消毒スルニハ三十分乃至一時間之ヲ煮沸スルヲ第一トス又ハ本患者ハ

痰ヲ隨意ノケ處ニ吐カシメス必一定ノ痰壺ニ集メテキ是ニ重炭酸曹達十分ノ一ヲ入レ熱湯ヲ注キ其儘蓋ヲナシテ十時間位放置ス斯クスルハ固マリタル痰カ曹達ノ爲メニ溶カサレ而シテ熱キ曹達ニア殺菌セラレ、モノナリ

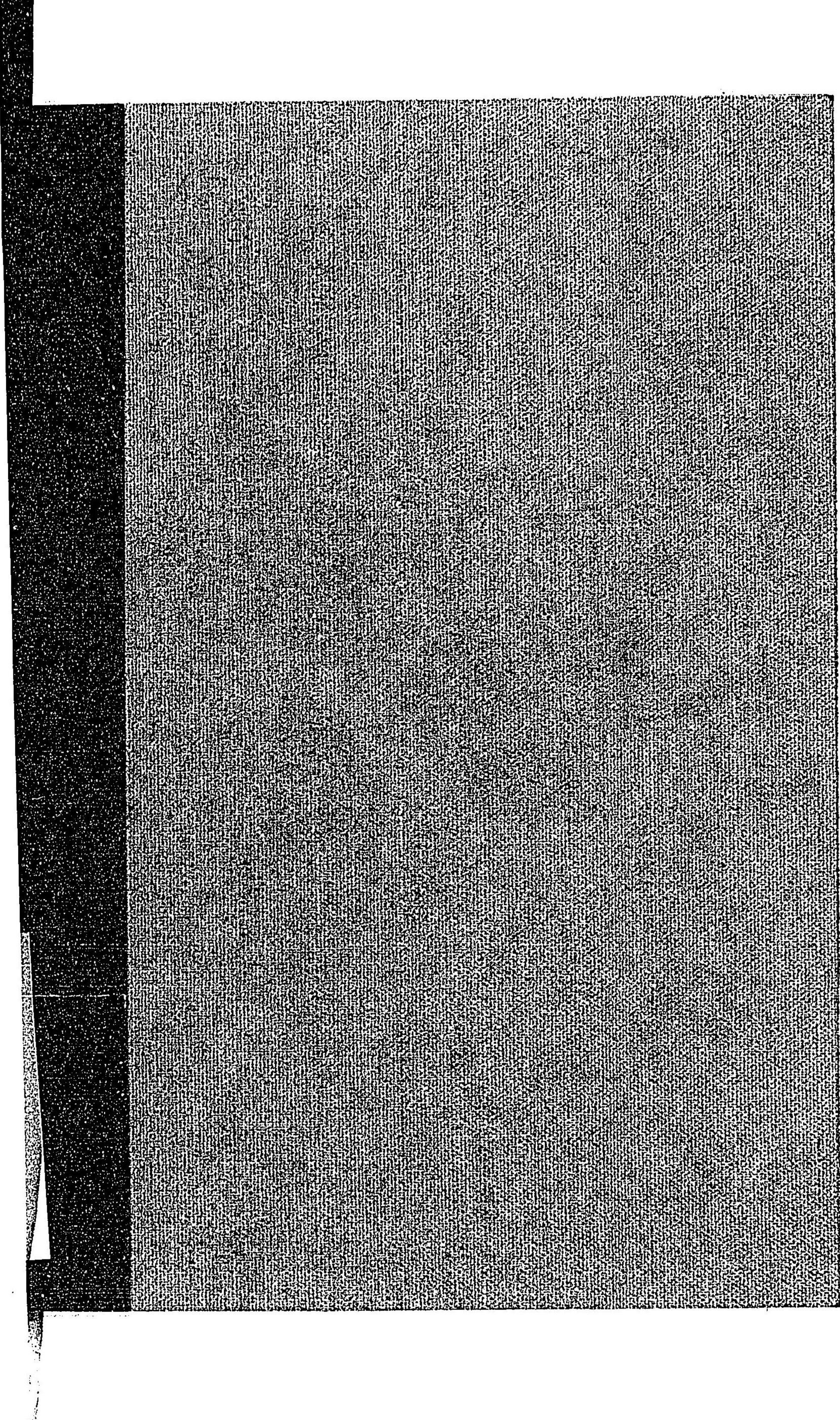
實布埜里亞ハ細菌其咽喉ニ付着シ義膜ヲ作り此中ニ存在スルモノナルヲ以テアロヨリ出ルモノハ總テ消毒ヲ要ス
實布埜里亞ハ免疫法ノ發見セラレシヨリ血清ヲ注射シテ二週間位ハ豫防スルヲ得ルナリ尤モ此事未タ種痘杯ノ如ク確カナルモノニアラス

此ガブア、ヤ血清治療ノ結果ハ五百九十名中五十六名ノ死ヲ見タリ此死亡中ニハ發病後十五時間餘ヲ經テ始メテ血清治療ニ着手シタルガ如キ手后レノモノ多シ(傳染病研究所報告)肺結核モ亦初期ナラバ一種ノ治療法ヲナスヲ得ルモノナリ彼ノユホ氏ノ發明ニ係ルツベル

シリンノ注射療法是ナリ
ペストハ消食器呼吸器及創傷等三道ヨリ傳染スルモノナルヲ以テ非常ニ注意セサル可ラス即チ一般ノ消毒法ニヨリ尙之ニ臨ム人ハ必ス創傷ナキ人ニ限ルベシ本病ハ前述ノ如ク横濱及長崎ニハ既ニ一度來リシコトナレハ最モ注意セサルベカラス
痘瘡ハ種痘ニテ豫防シ得ラル、ト雖モ一定期間ノ外ハ免疫ノ効ナキヲ以テ五年乃至七年目ニハ必ス反覆之ヲ行フベシ

獨逸ノ如キ初種再三種ヲナサシムルコトガ法律トナリテ嚴行セラル、國ニハ天然痘至テ少キモツエスト、レ、キノ如キハ嚴律ヲキテ以テ其流行常ニ甚ダシ
發疹窒扶斯麻疹ノ如キハ病原不明ナルヲ以テ可成速カニ隔離スルノ外ナキナリ

回歸熱ニ付テハ血液中ニ一種ノ細菌アルモノナルモ其傳染ノ經路未タ分明ナラサルヲ以テ是ニ接スルモノ及創傷消食器等ヨリモ來ルモノトシテ注意セサルベカラズ多ノ經驗ニヨルバ極メテ親密ニ交通シ患者及患者用ノ衣服器具等ヨリ其他看病人ニ接スルモノニ先ツ以テ傳染スルモノ多キヲ見ルナリ



特71

334

伝染病予防消毒心得書

国立国会図書館

060705-000-2

特71-334

伝染病予防消毒心得書

河内 一郎/編

〔出版事項不明〕

CBM-0577

